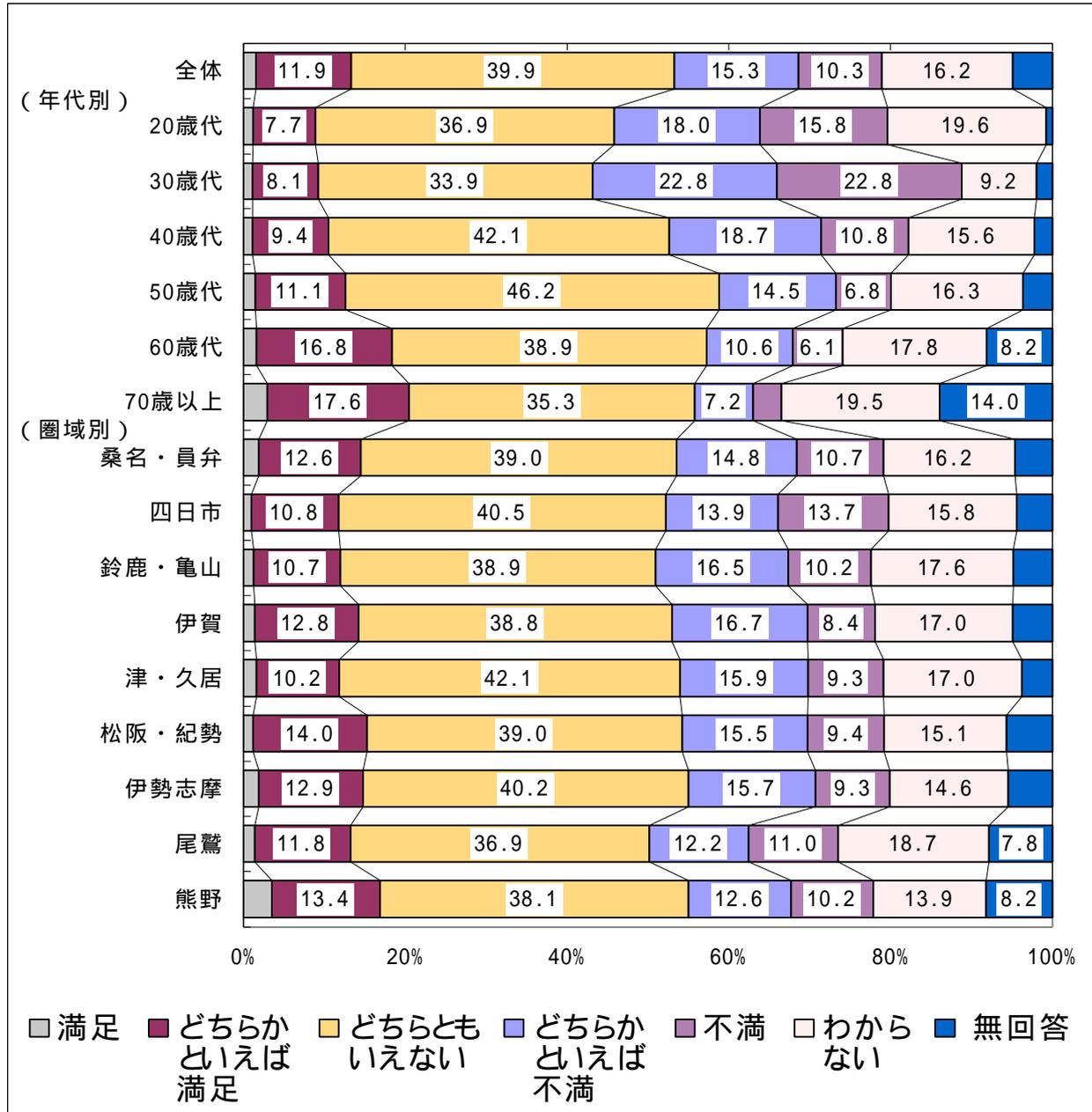


(4) 個別項目ごとの満足度(年代別、生活創造圏別)

一人ひとりを大切にし、人と文化を育てるために

1) 人権侵害や差別をなくすための取り組み

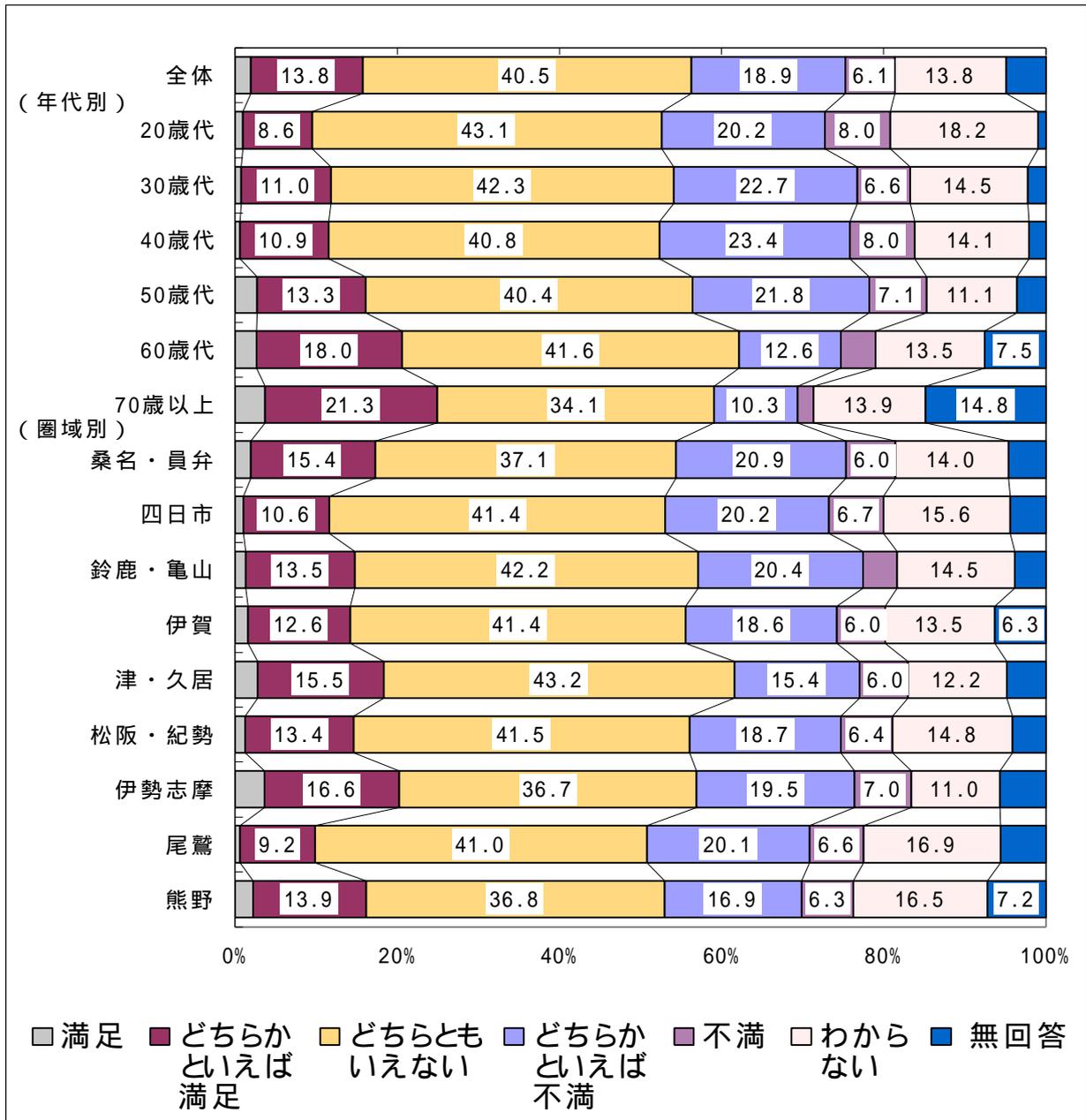


約半数の47.5%が、「どちらともいえない」としており、満足意識(17.8%)と不満足意識(16.6%)がほぼ拮抗している。

50歳代以上では満足意識が不満足意識より高いが、40歳代以下の年代では不満足意識が満足意識を上回っている。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

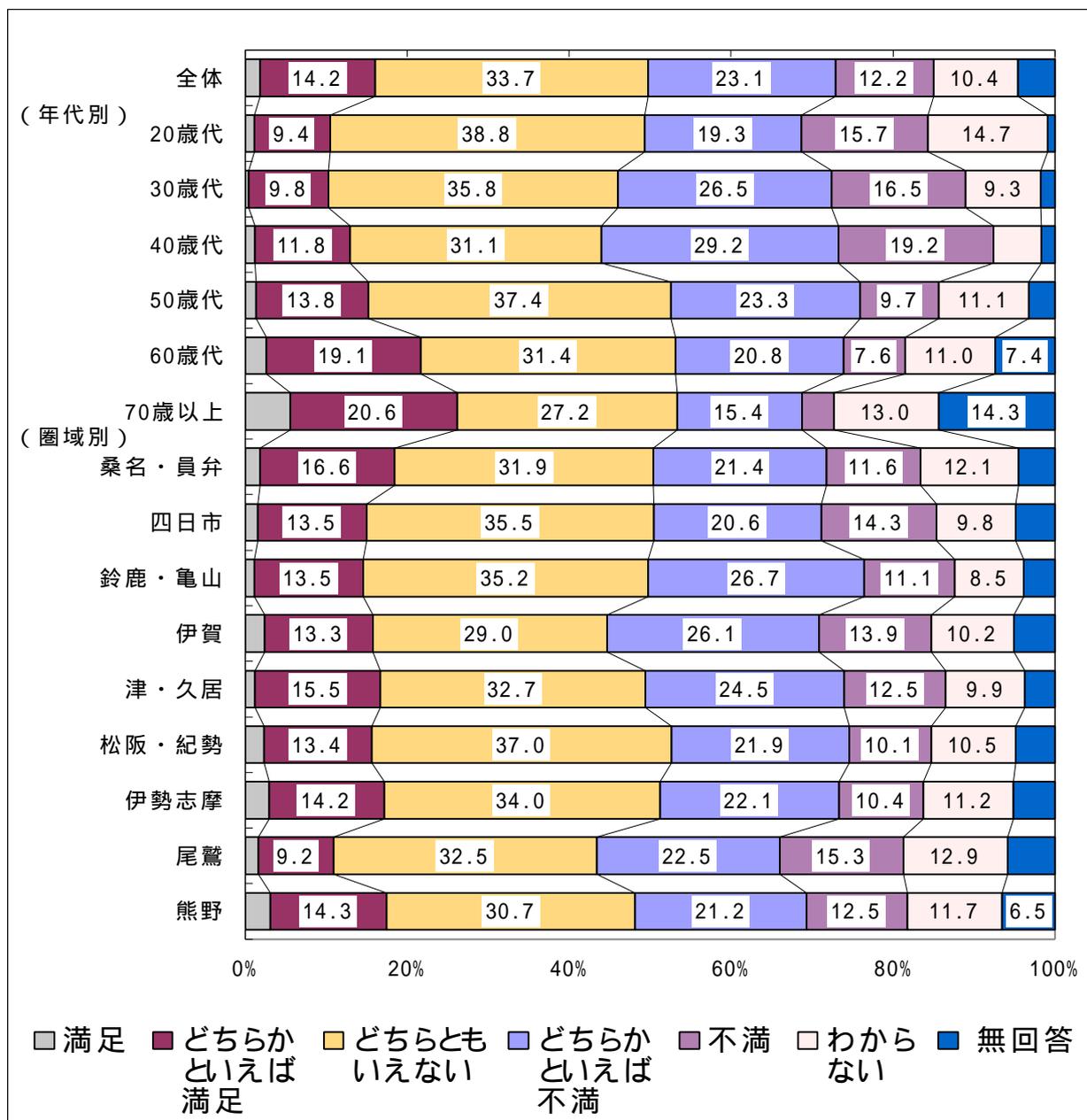
2) 生涯学習の場と機会の提供



60歳以上になると不満足意識が急激に少なくなり、満足意識の方が高くなっている。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

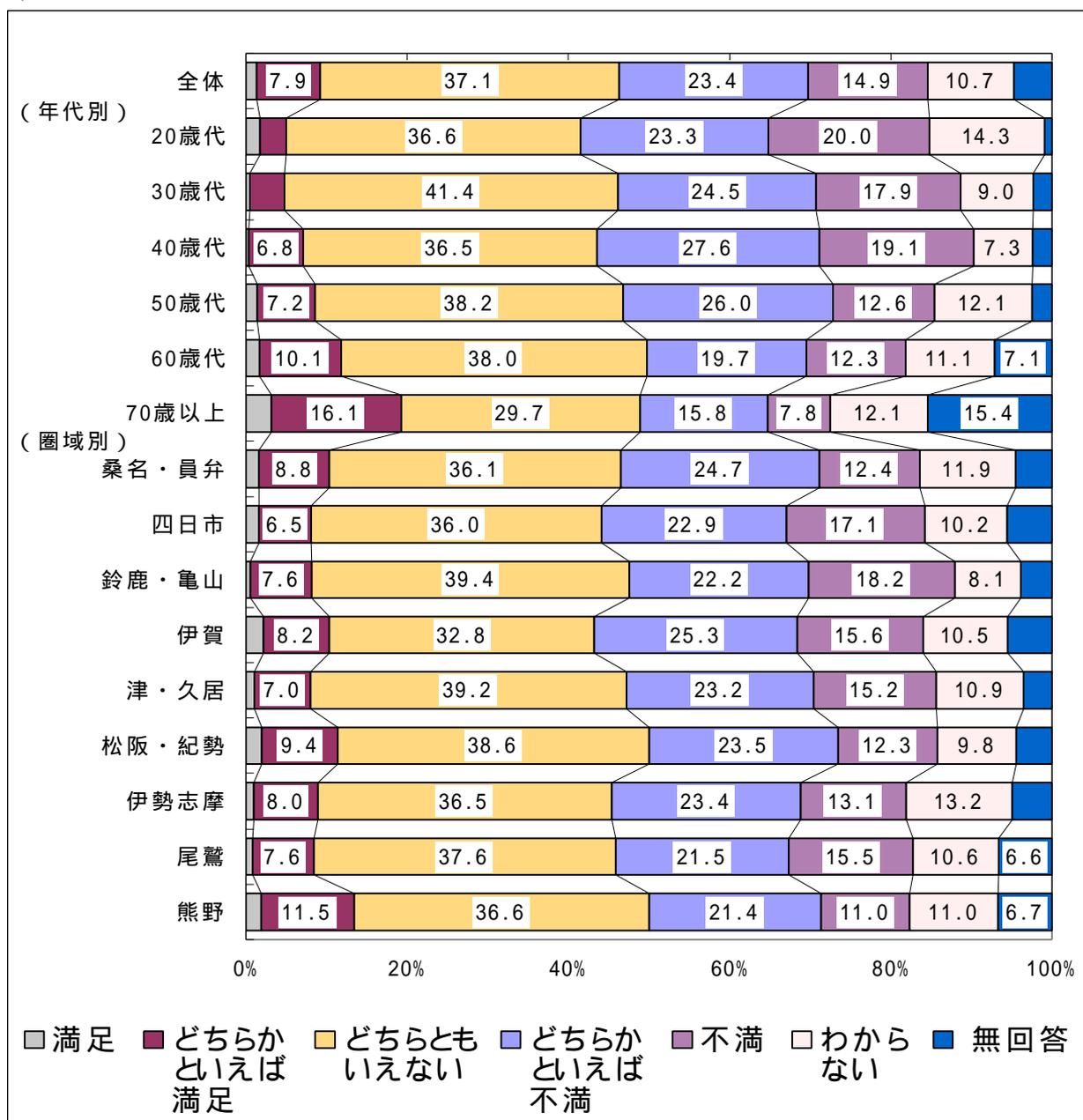
3) 学校教育への取り組み



30歳代、40歳代の不満意識が高く、特に40歳代では48.4%と約半数に達している。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

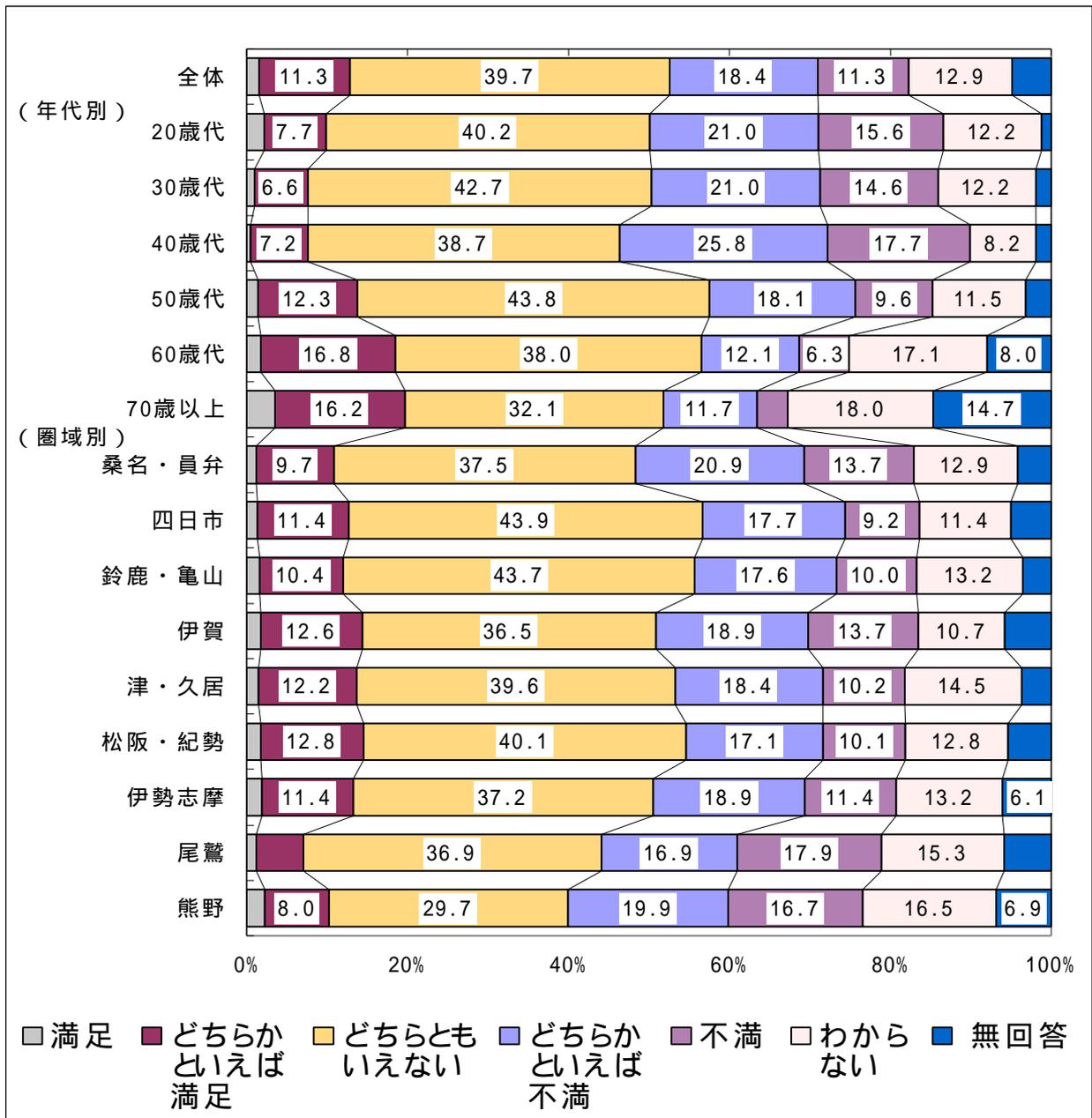
4) 青少年の健全育成



全ての年代で不満足意識が満足意識を上回っており、とりわけ40歳代の不満足意識が46.7%と高くなっている。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

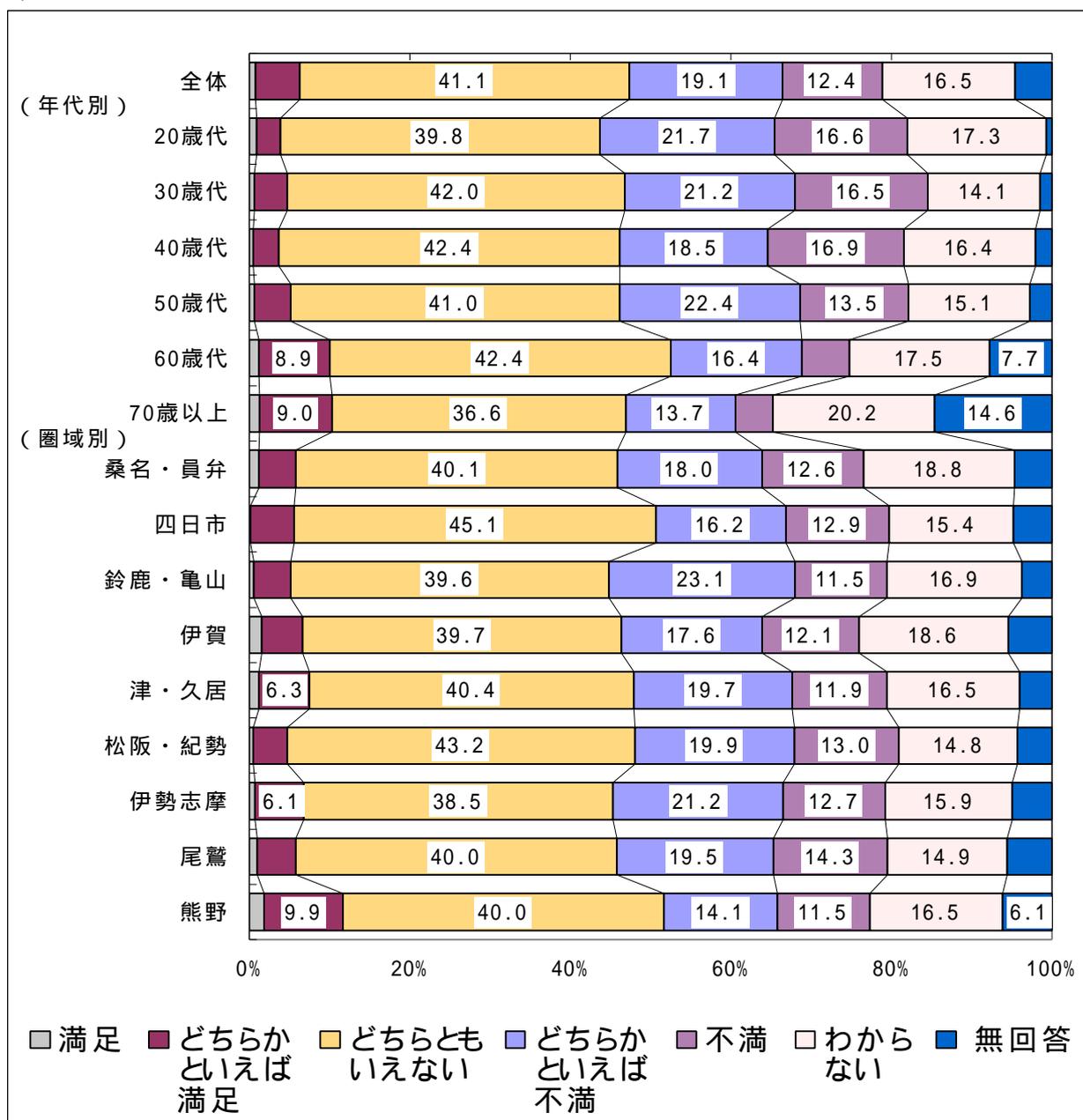
5) 大学などの高等教育機関の充実



40歳代の不満足意識(43.5%)が最も高く、次いで20歳代(36.6%)、30歳代(35.6%)となっている。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

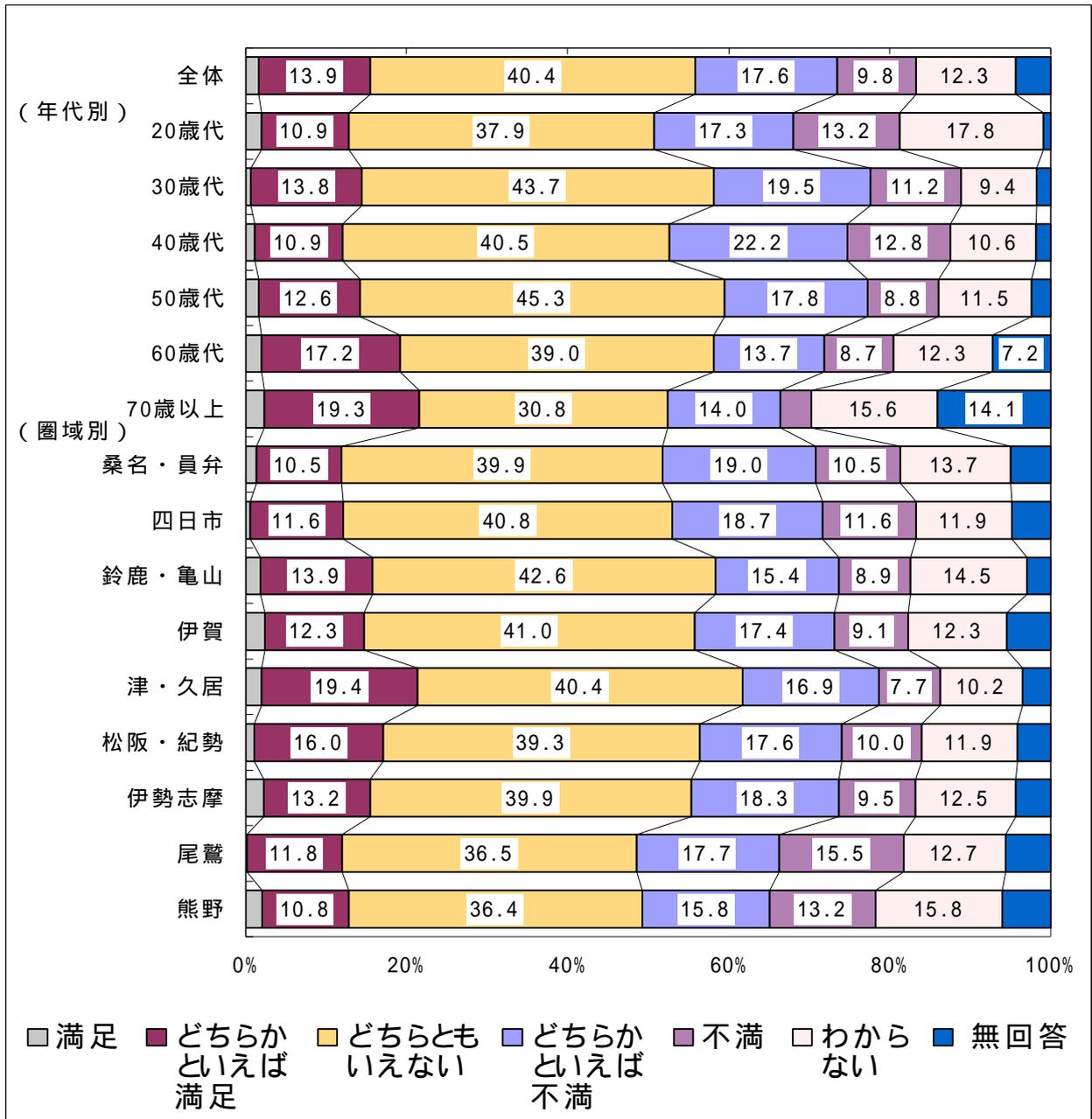
6) 職場へのボランティア休暇の導入など、住民が市民活動に参加しやすい条件の整備



不満足識が31.5%とかなり高くなっている。
 全ての年代で不満足識が満足識を上回っている。

満足識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満足識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

7) 芸術文化にふれあう機会の提供

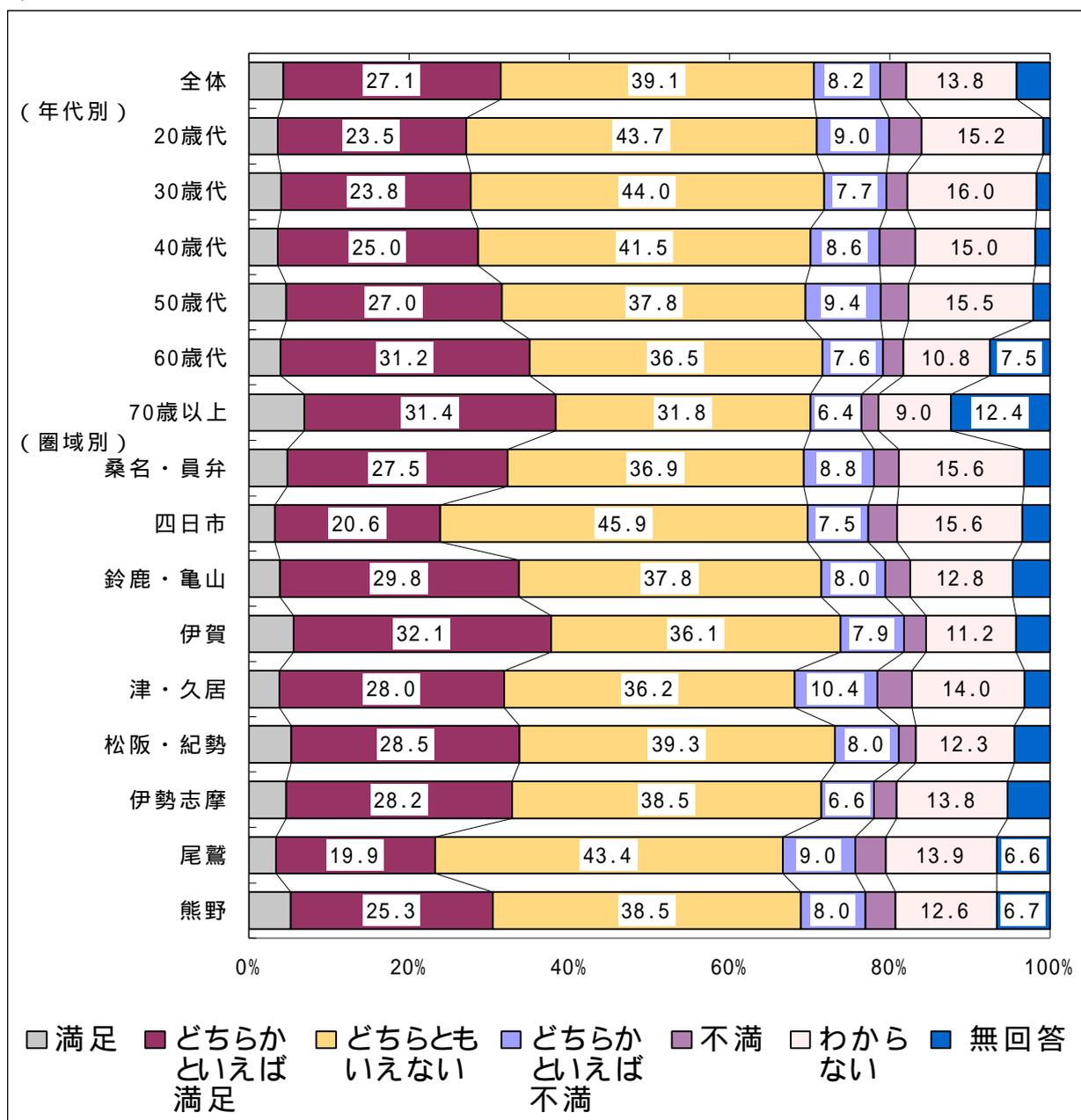


生活創造圏別の満足意識が最も高いのは、津・久居で21.4%となっている。

逆に不満意識が高いのは尾鷲の33.2%で、次いで四日市の30.3%、桑名の29.5%、熊野の29.0%と県の南部と北部の両端で高くなっている。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

8)文化遺跡、史跡、天然記念物などの保存

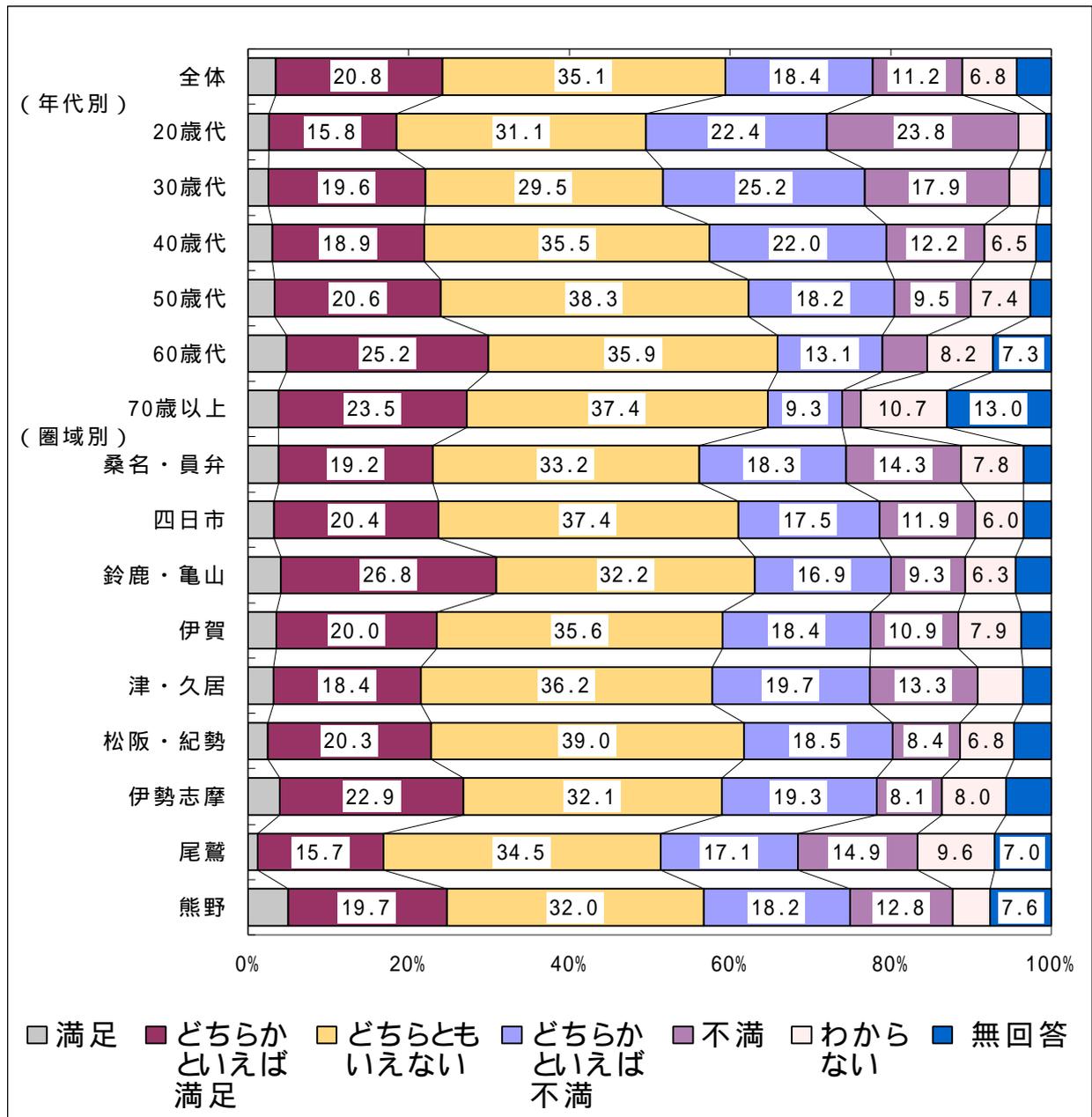


満足意識（31.5%）が不満足意識（11.5%）を大きく上回っている。

全ての年代で満足意識が不満足意識を上回っている。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

9) スポーツ・レクリエーション施設の整備

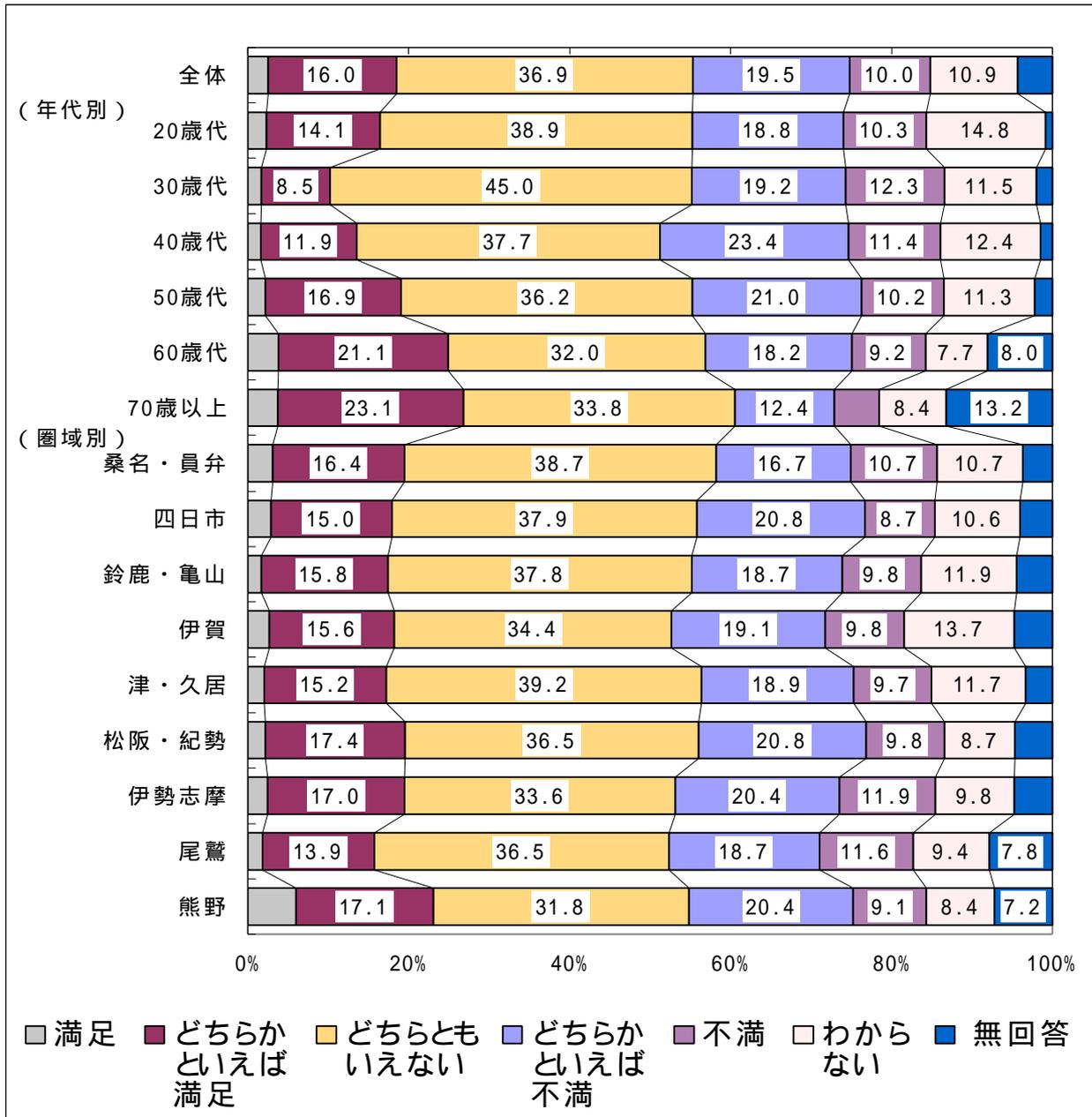


年代別の不満足意識は、20歳代が46.2%で最も高くなっており、年代が高くなるに従って低くなっている。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

安全で安心なささえあい社会をつくるために

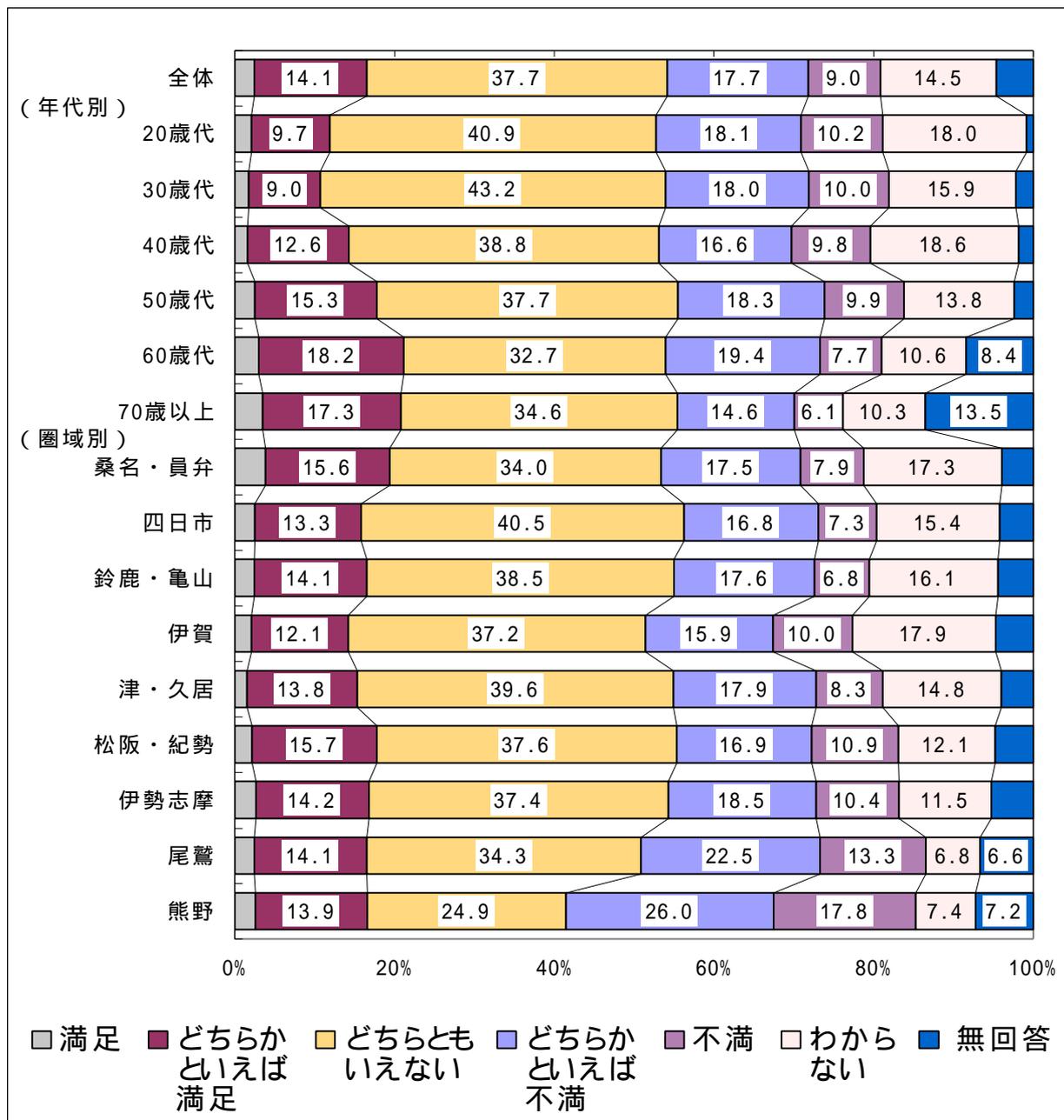
10)防災対策への取り組み



満足意識、不満意識ともに生活創造圏別の格差はほとんどない。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

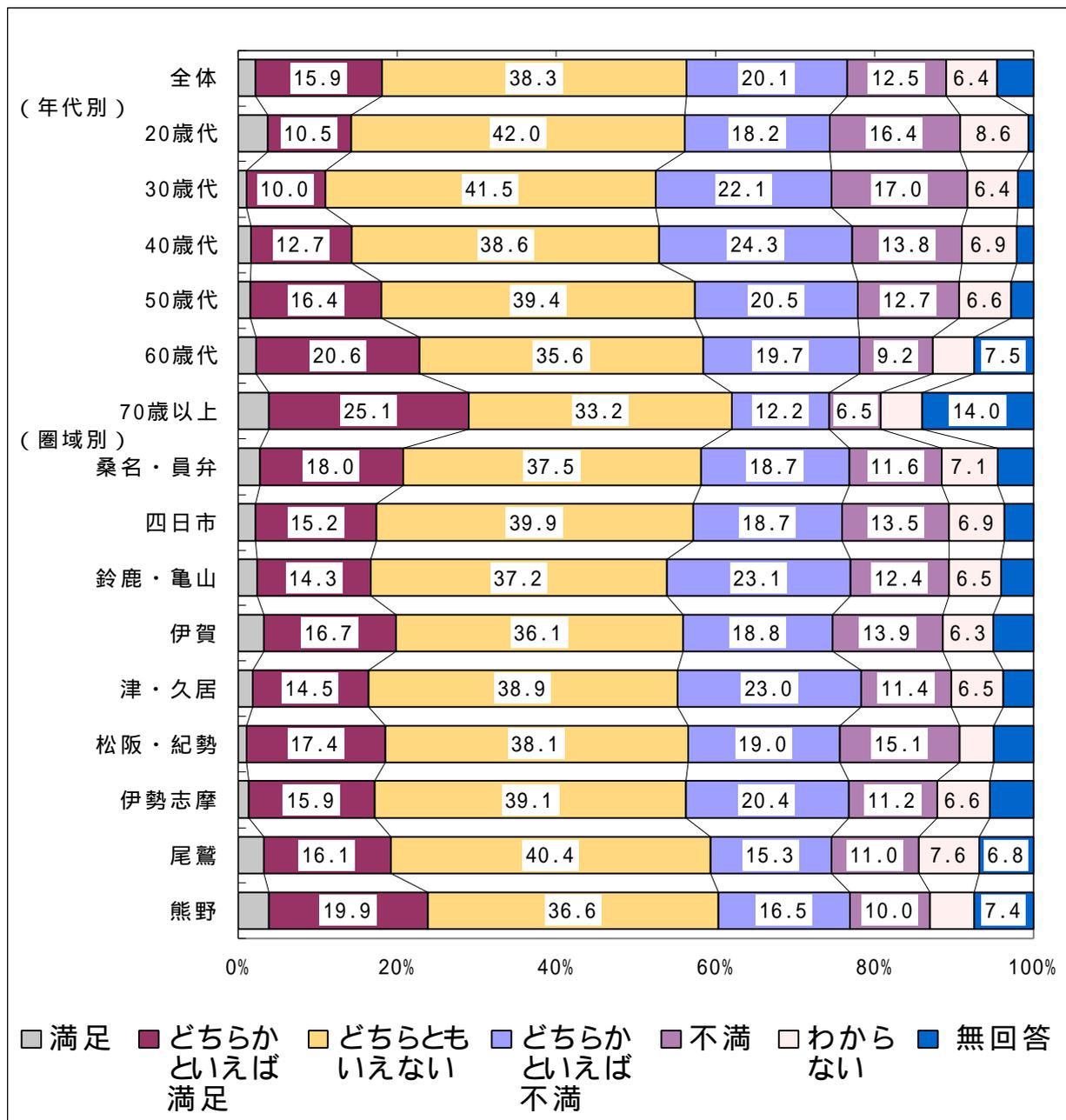
11) 洪水や高潮、土砂災害などへの対策



熊野と尾鷲の不滿意識がそれぞれ43.8%、35.8%と特に高くなっている。

滿意意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不滿意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

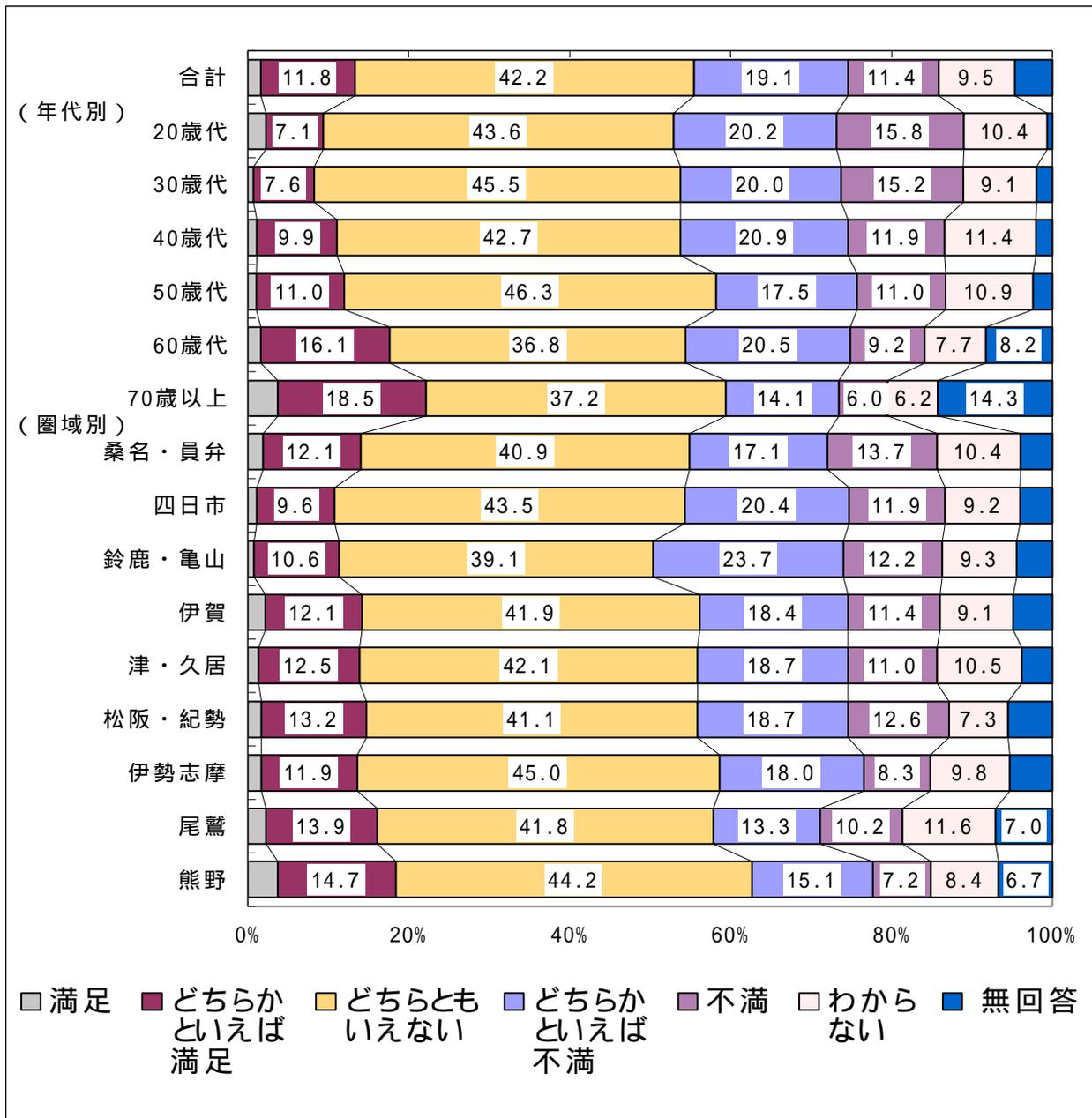
12)交通安全対策の推進



鈴鹿・亀山（35.5%）、津・久居（34.4%）、松阪・紀勢（34.1%）の不満足意識が、県全体の不満足意識（32.6%）を上回っている。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

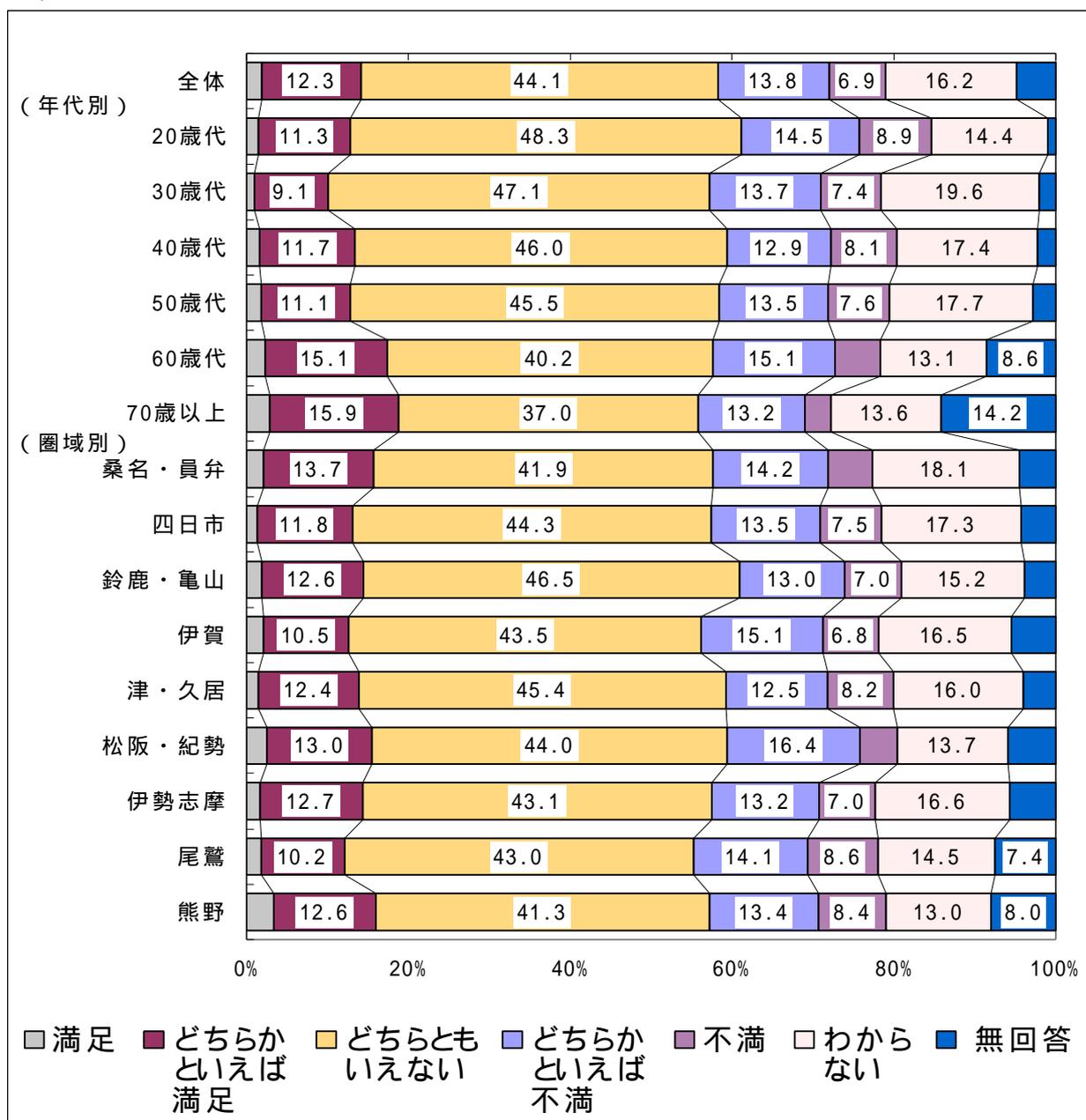
13)防犯活動の強化



生活創造圏別では、鈴鹿・亀山の不満意識（35.9%）が最も高く、尾鷲（23.5%）、熊野（22.3%）は低くなっている。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

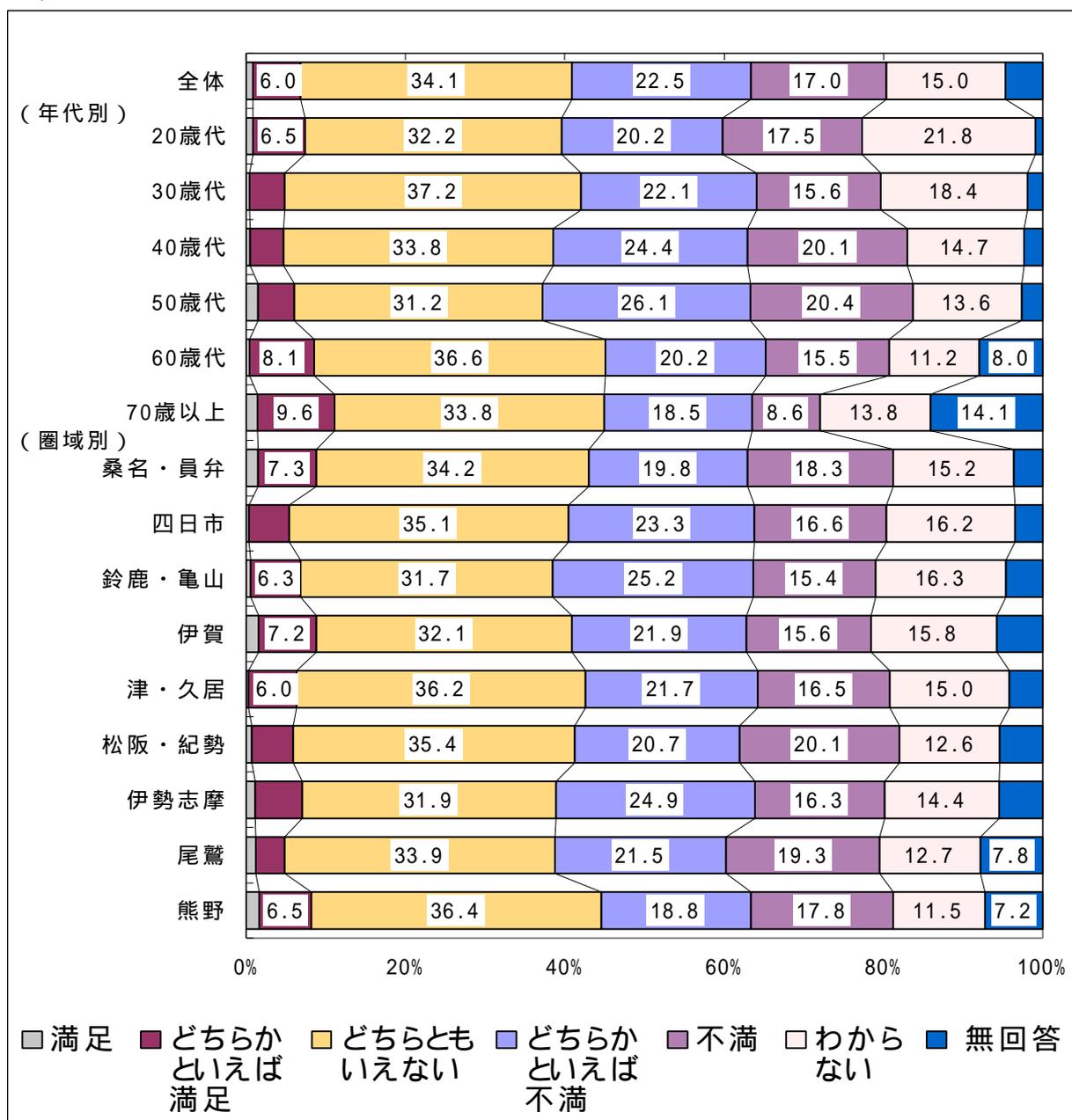
14)食品の安全性確保のための衛生管理体制の整備



70歳以上を除く各年代で不満足意識が満足意識を上回っている。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

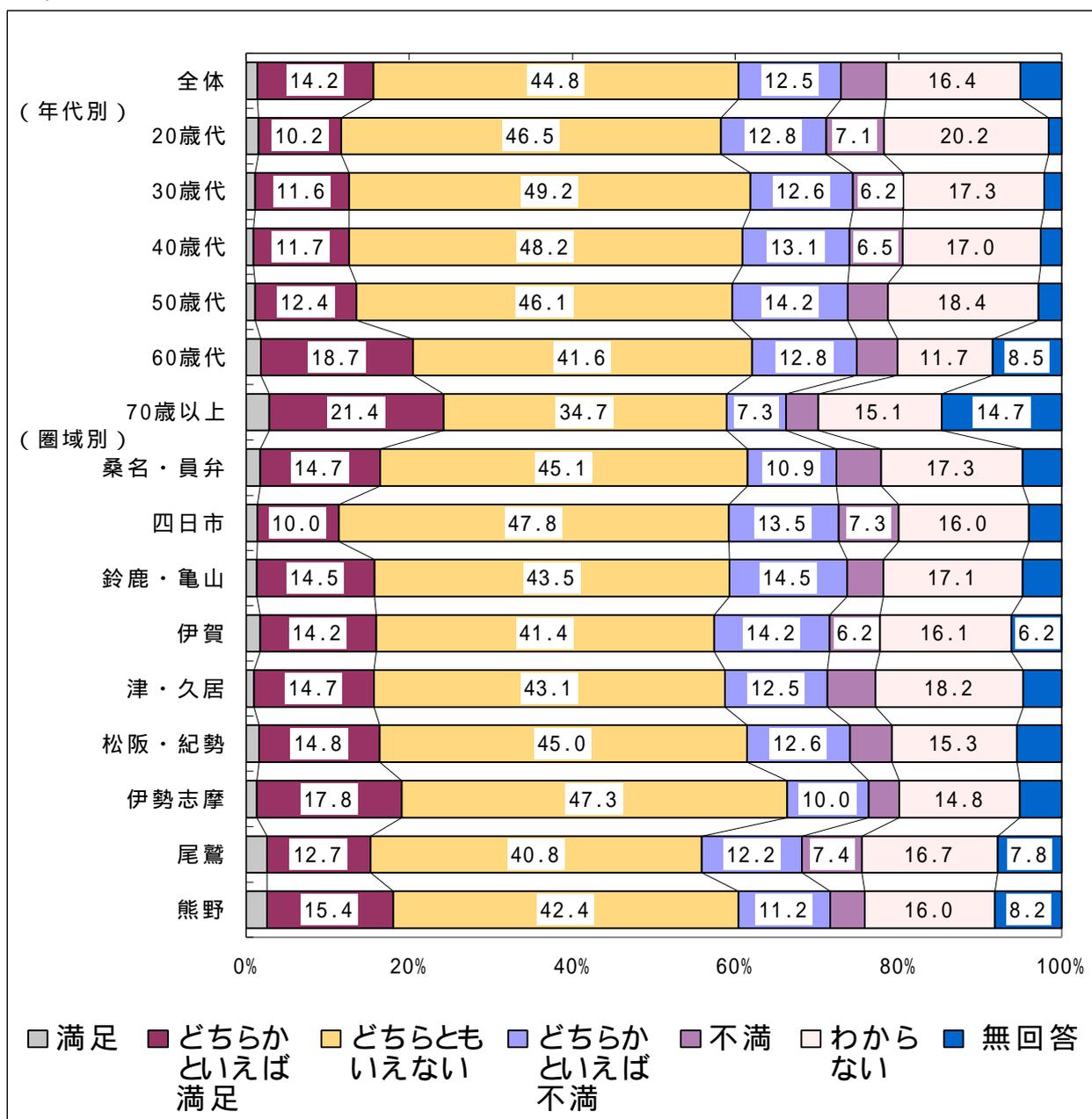
15)高齢者や障害者の就労条件などの整備



不満足意識（39.5%）がかなり高く、全ての年代で満足意識を上回っている。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

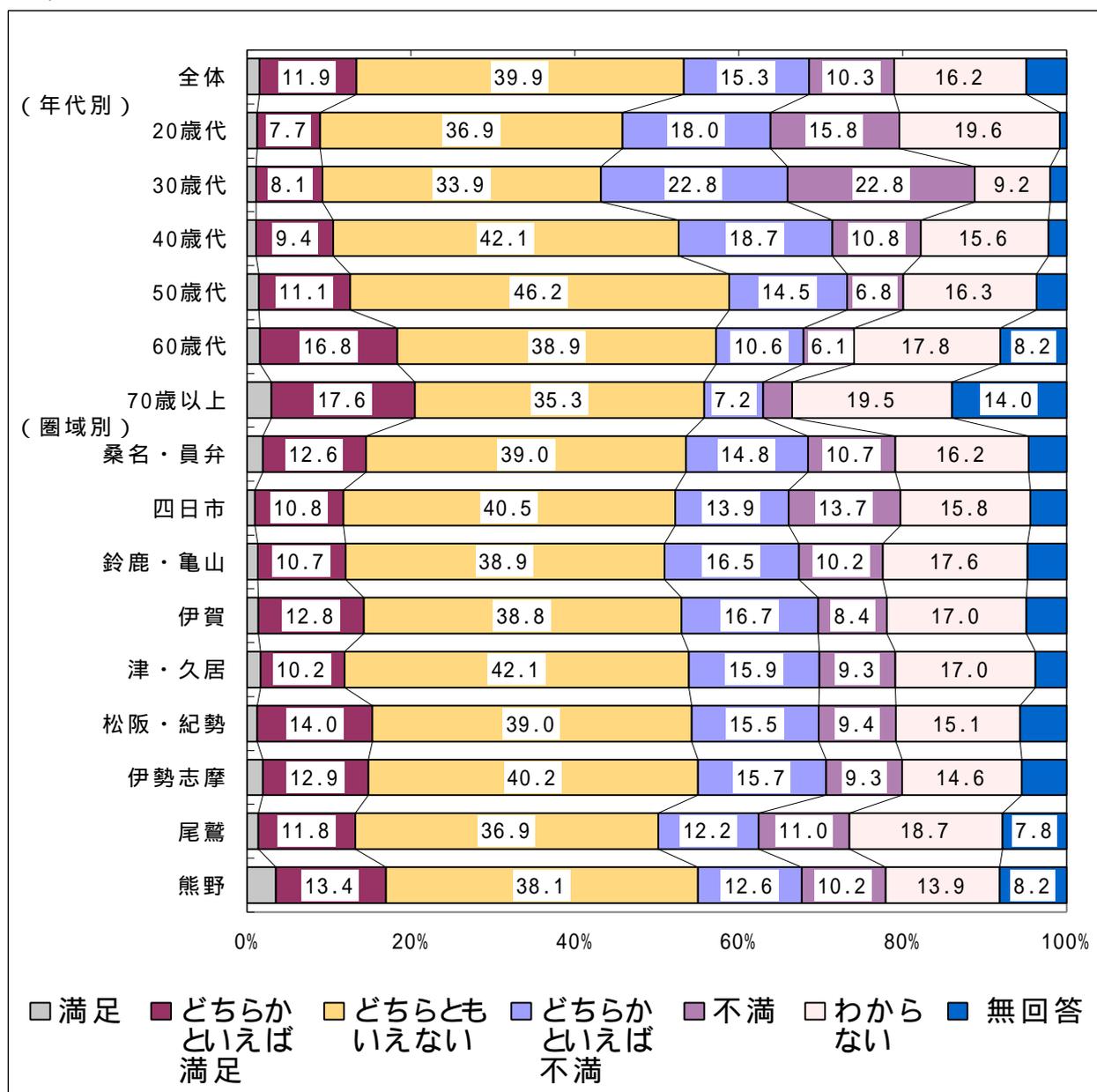
16)生活習慣病や感染症の予防など保健予防体制の確保



60歳代、70歳以上では、満足意識が不満足意識を上回っているものの、50歳代以下では、不満足意識の方が高くなっている。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満足意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

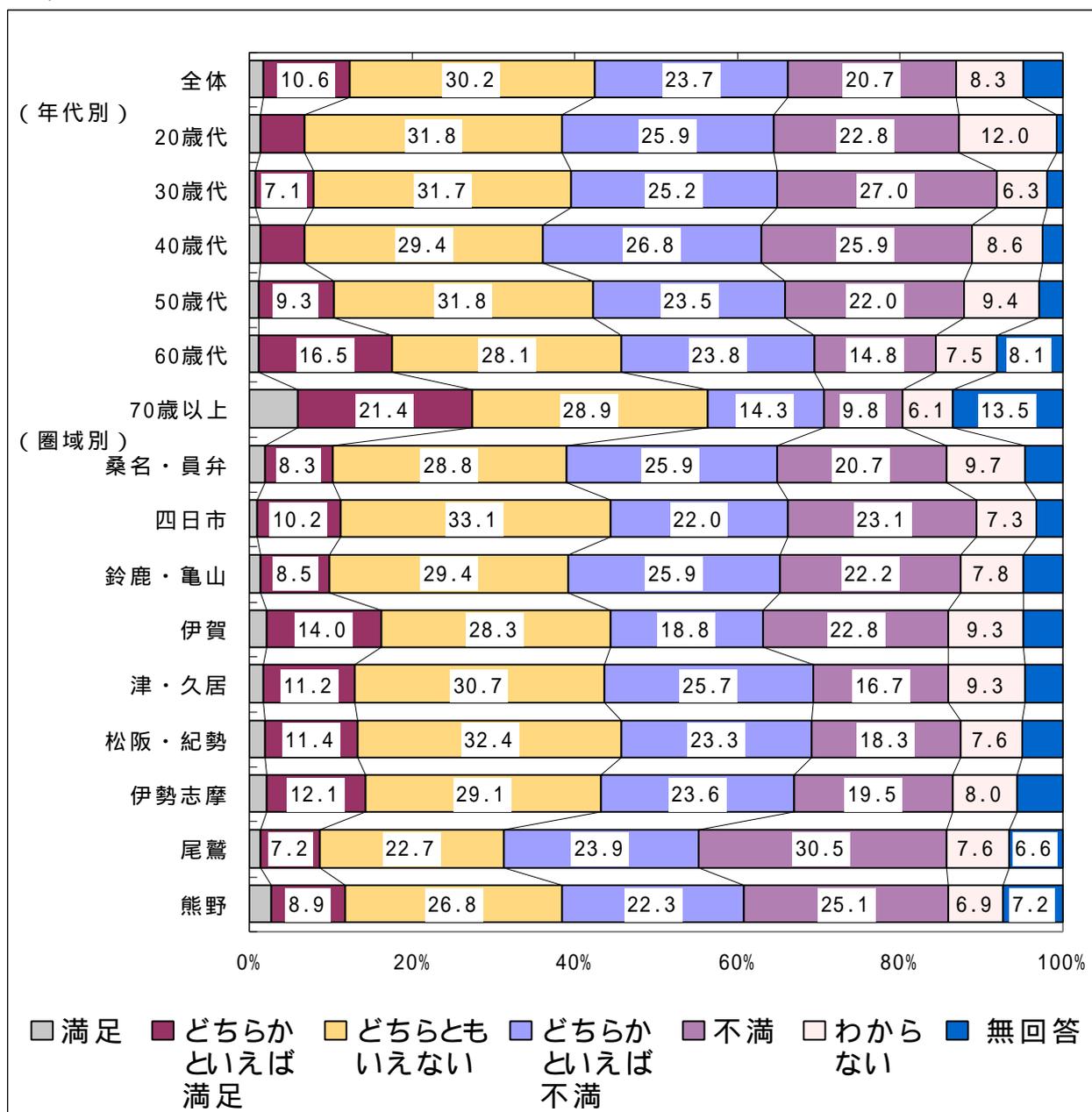
17)母子保健対策、保育サービスなど子育て環境の整備



30歳代の不満意識が45.6%と最も高く、次に20歳代が33.8%となっている。

満足意識とは、「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計
 不満意識とは、「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計

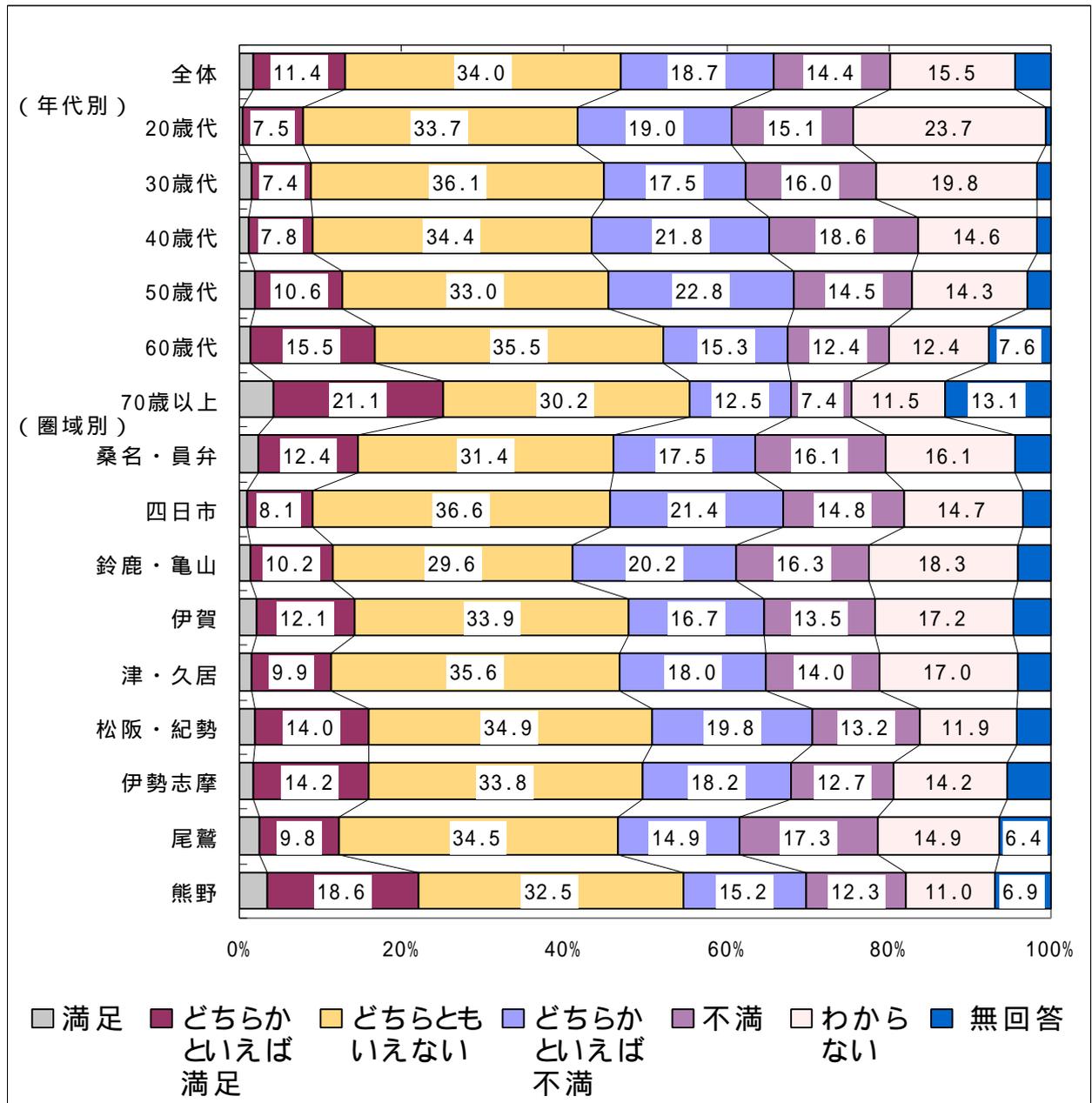
18) 病状に応じて適切な医療が受けられる患者本位の医療体制の確保



不満足意識が全体的に高く（44.4%）、とくに30歳代（52.2%）と40歳代（52.7%）では50%を超えている。

生活創造圏別では、尾鷲（54.4%）で不満足意識が50%を越えている。

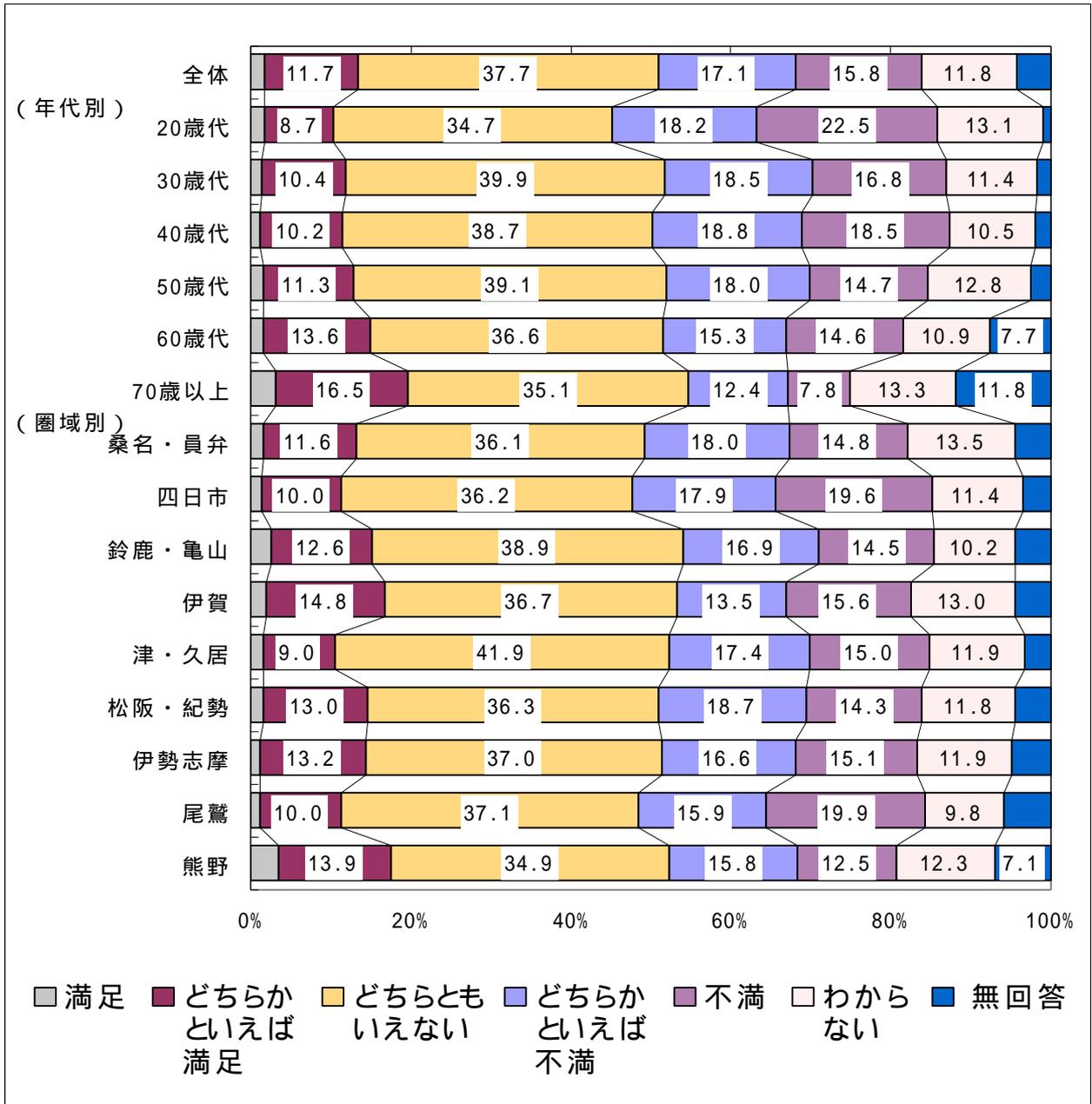
19) 訪問介護など保健・福祉サービスの提供



不満足意識が33.1%とかなり高く、属性別では40歳代が最も高く(40.4%)になっている。

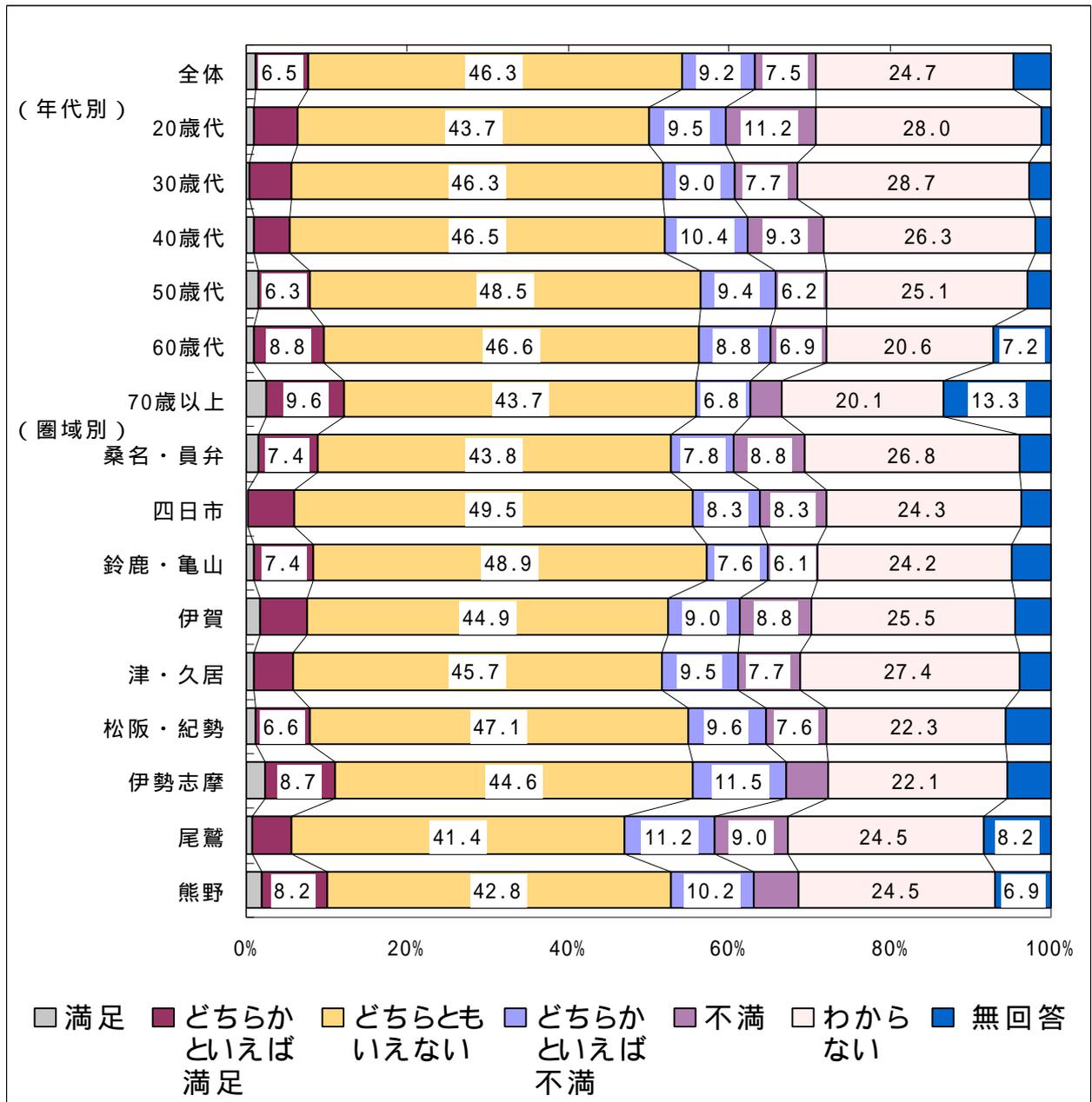
自然と調和した美しい環境を創造するために

20) 自然環境の保全



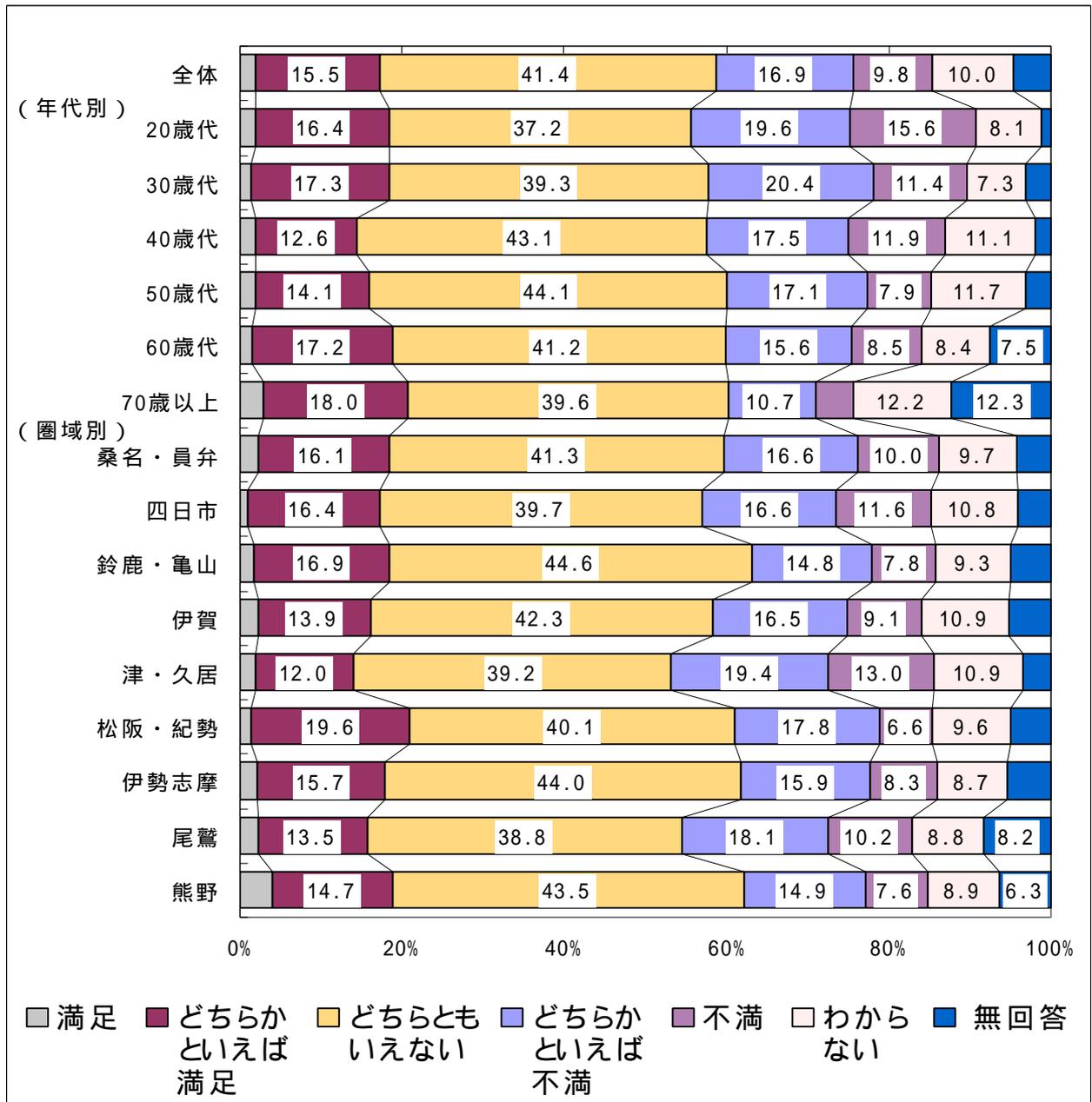
不満足意識（32.9%）がかなり高く、全ての年代で満足意識を上回っている。

21)希少な野生生物の保護



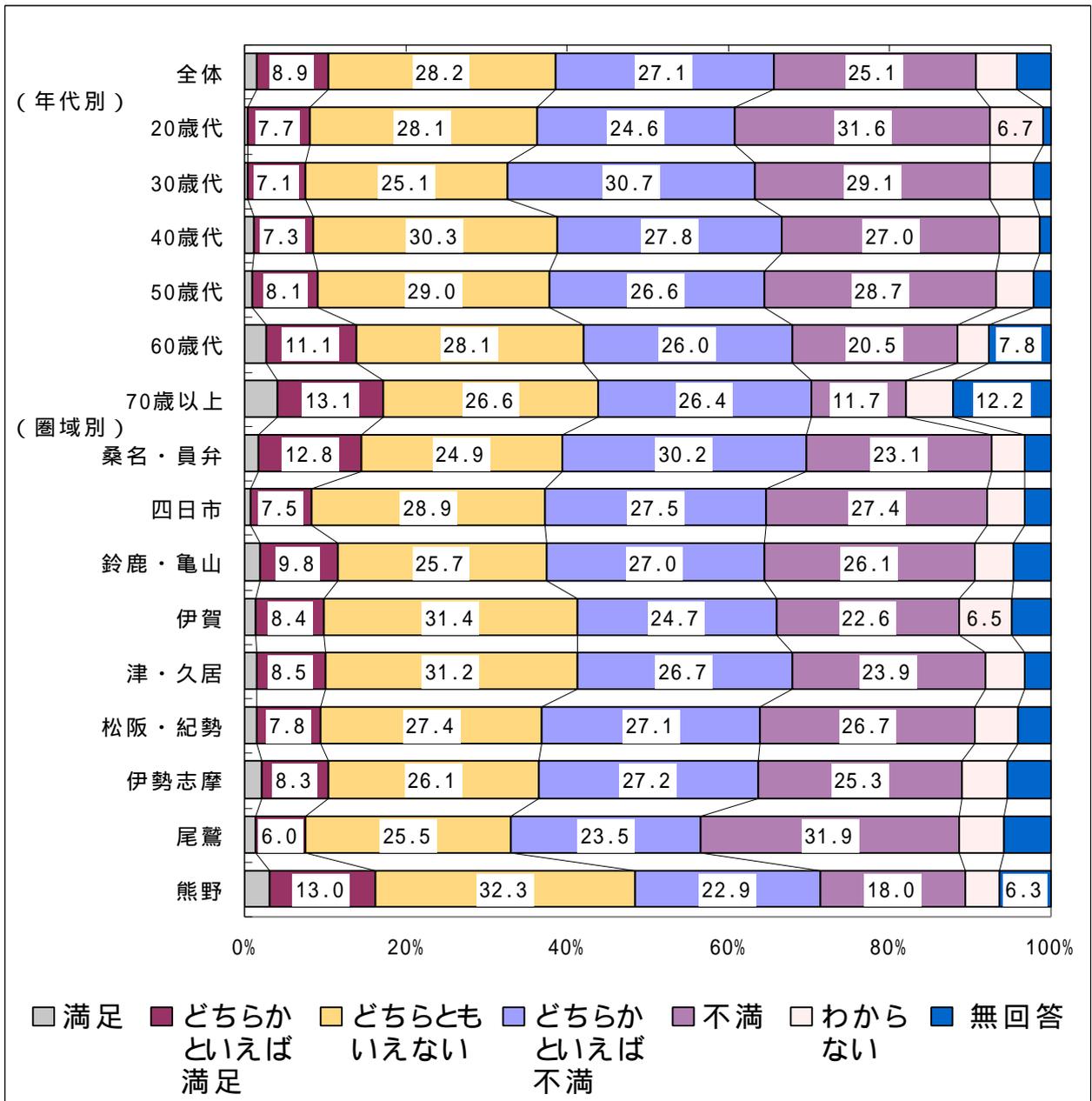
「どちらともいえない」(46.3%)、「わからない」(24.7%)という回答が多い。

2 2)自然に親しむ場の整備



年代別の不満足意識は20歳代が35.2%で最も高く、年代が高くなるに従って低くなっている。

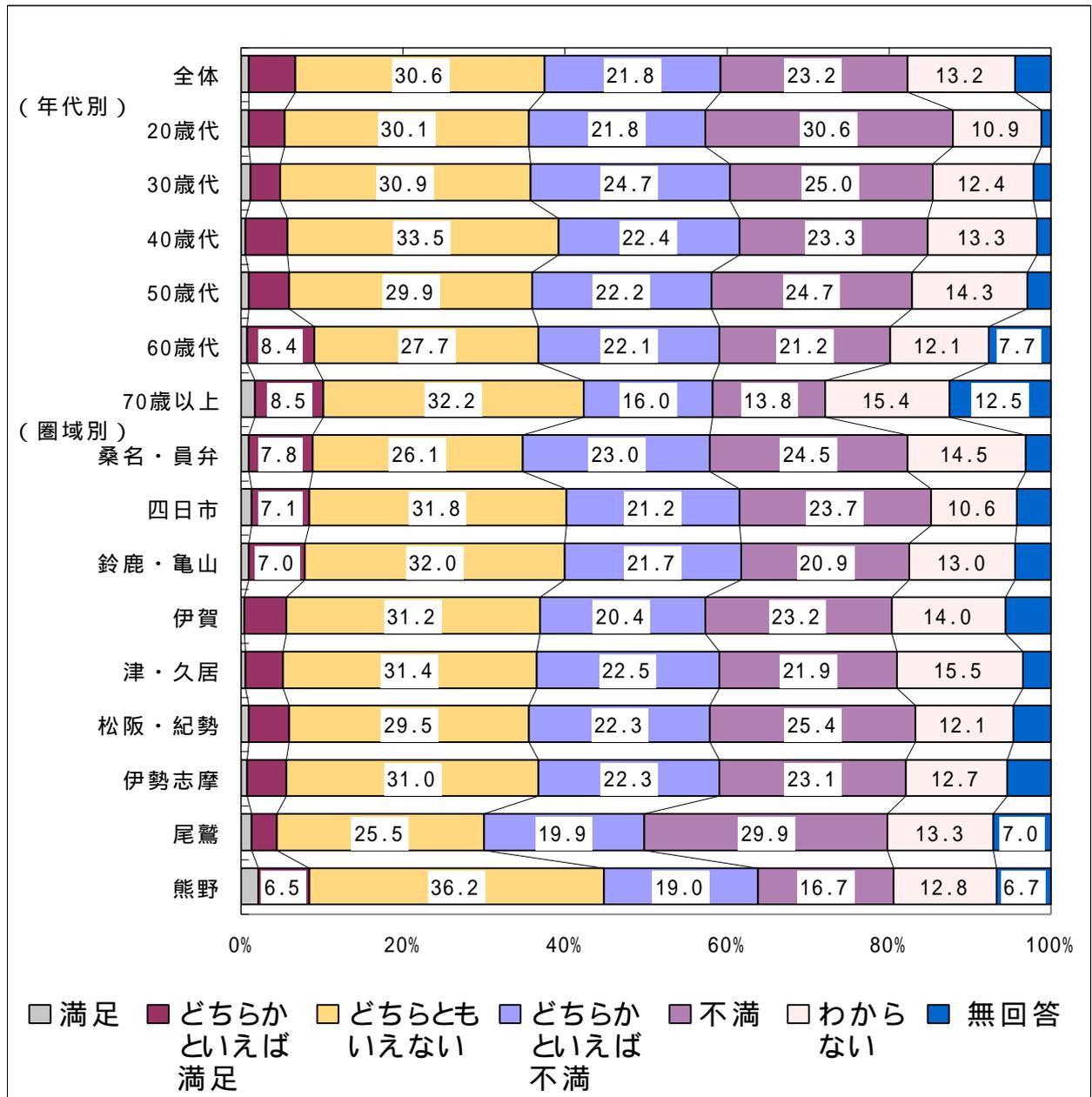
23)ごみの減量化



不満足意識（52.2%）が45項目中最も高くなっており、全ての年代で満足意識を上回っている。

生活創造圏別の不満足意識は、熊野が40.9%とやや低い以外にはあまり差はみられない。

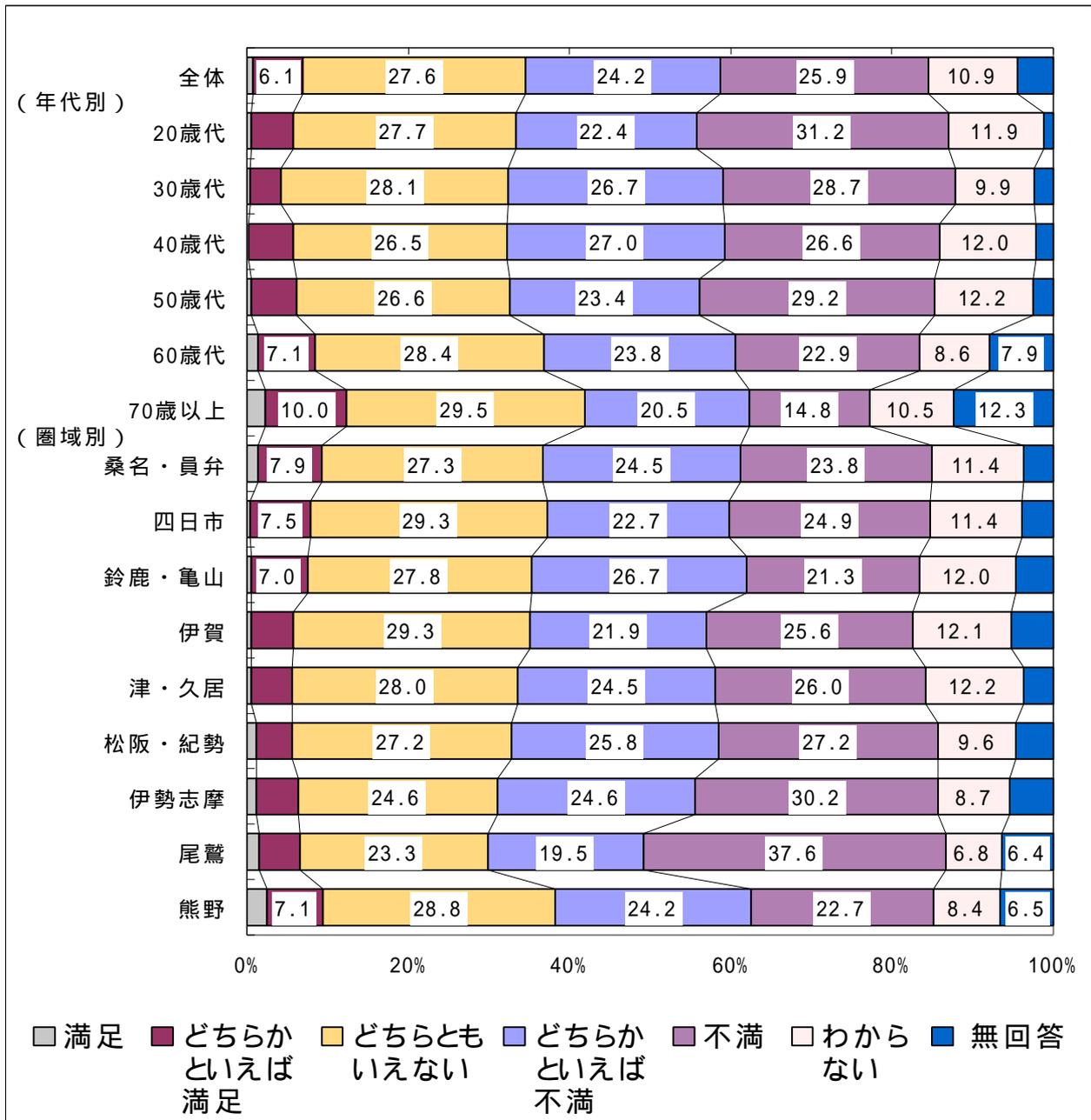
2 4)大気汚染防止対策の強化



不満足意識（45.0%）が4 5項目中5番目に高くなっている。

生活創造圏別の不満足意識は、熊野が35.7%とやや低い以外にはあまり差はみられない。

25)川や海の水質浄化

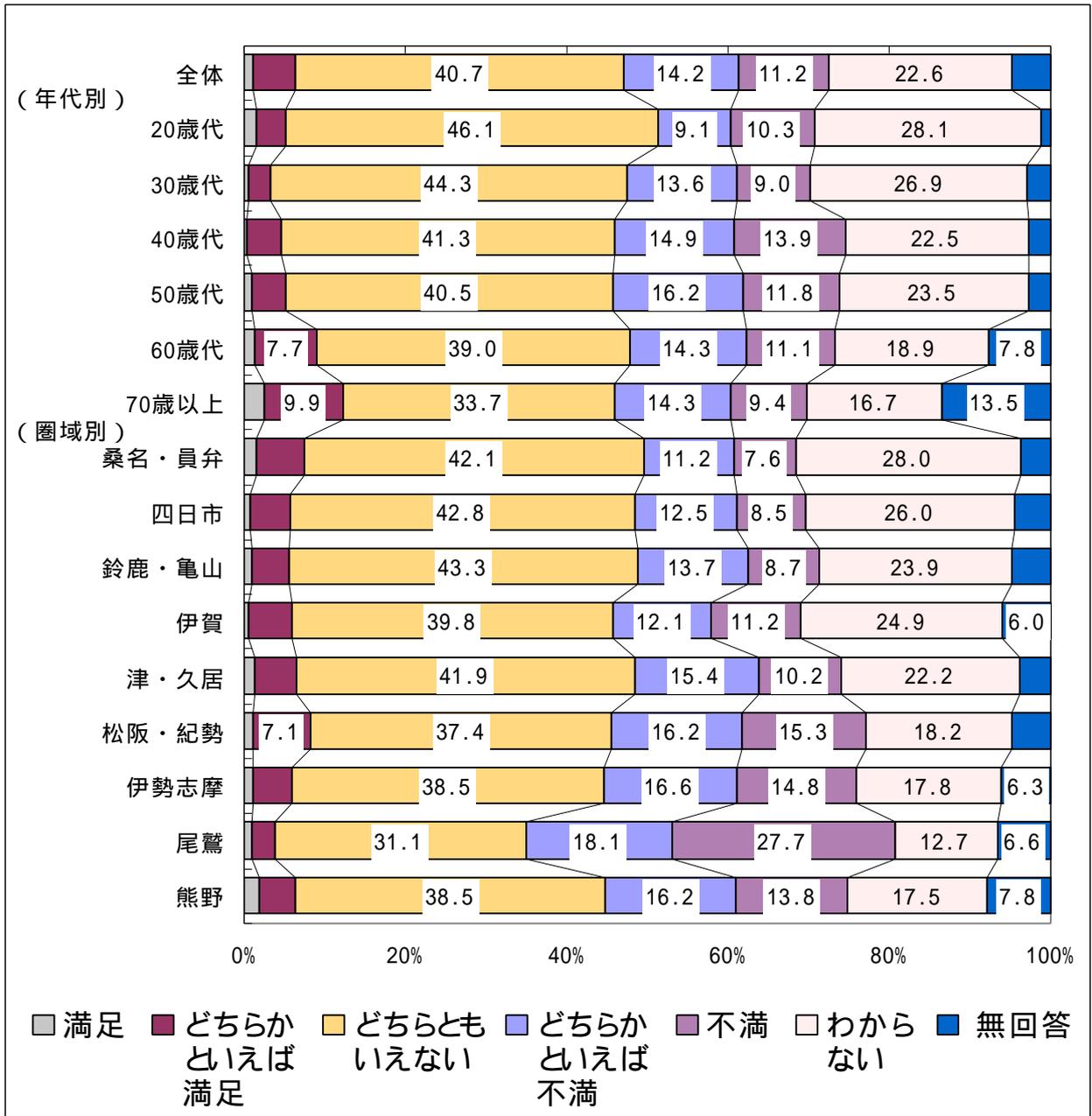


不満足識（50.1%）が45項目中2番目に高くなっている。

尾鷲（57.1%）、伊勢志摩（54.8%）、松阪・紀勢（53.0%）、津・久居（50.5%）の各生活創造圏で県全体より不満足識が高くなっている。

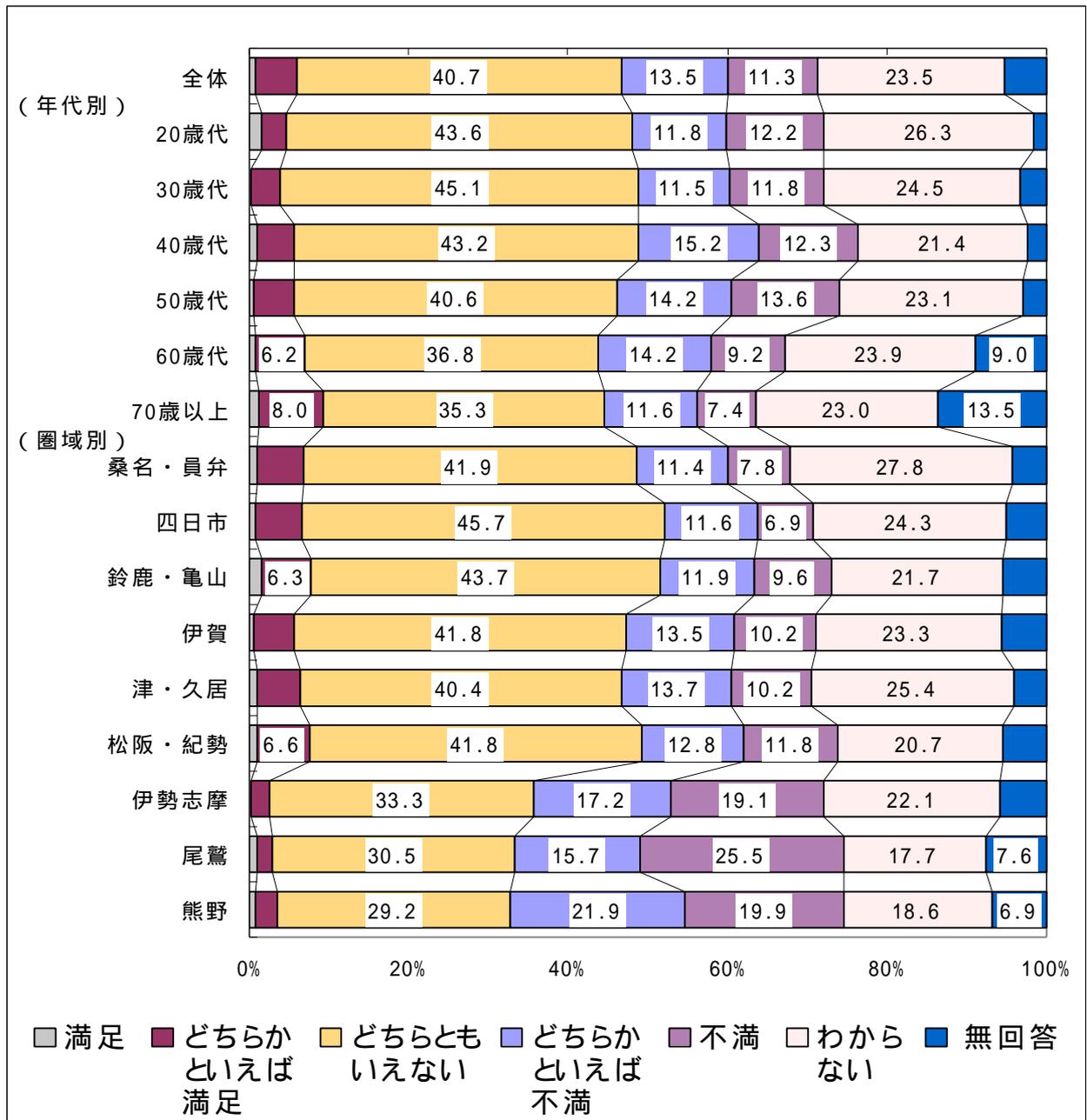
産業を盛んに、経済を活発にするために

26) 農林水産業の活発化



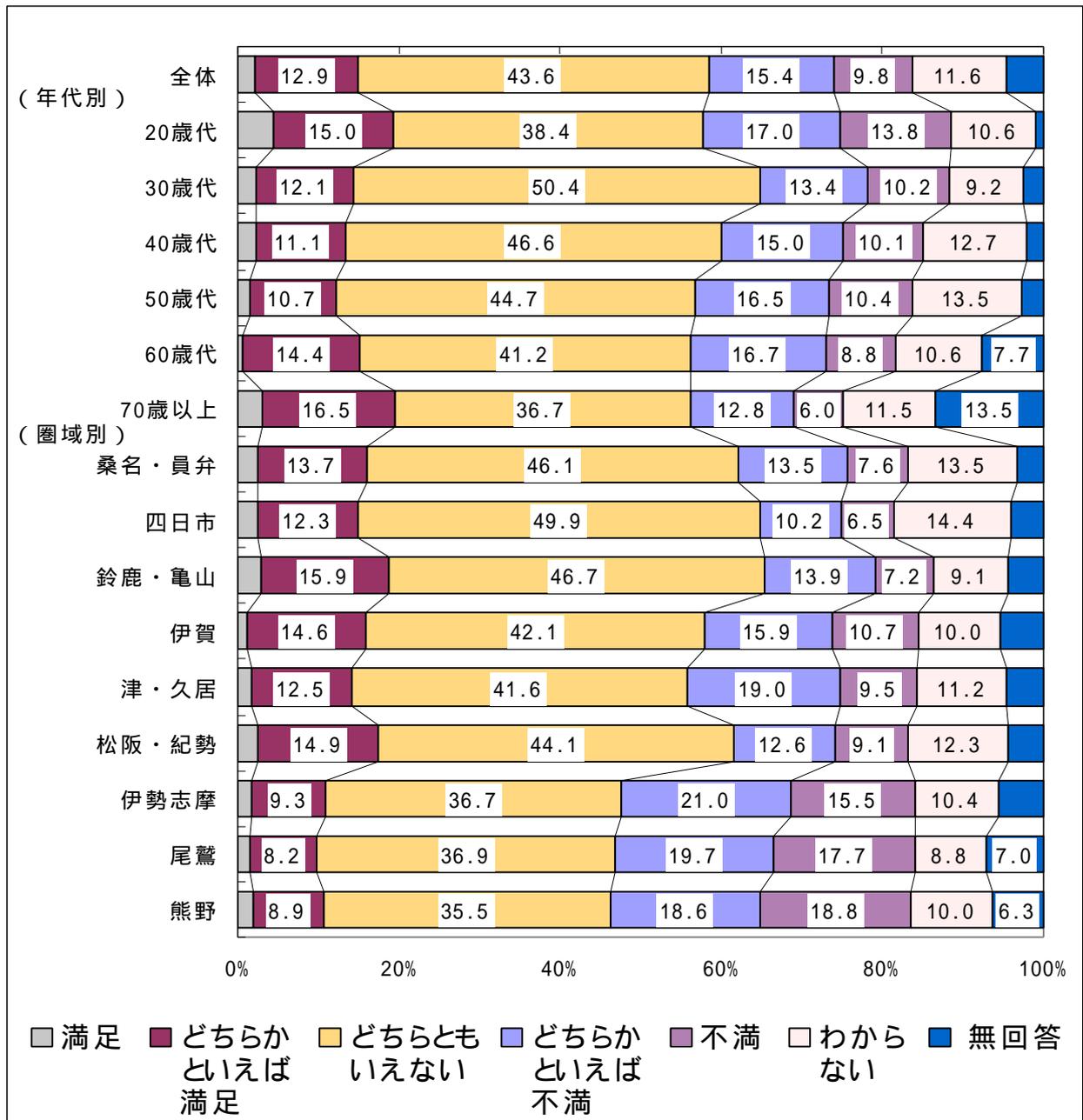
全体では「どちらともいえない」(40.7%)、「わからない」(22.6%)という回答が多いが、生活創造圏別にみると、尾鷲では不満足識が45.8%に達している。

27)新しい分野の産業の育成や先端的企業の誘致



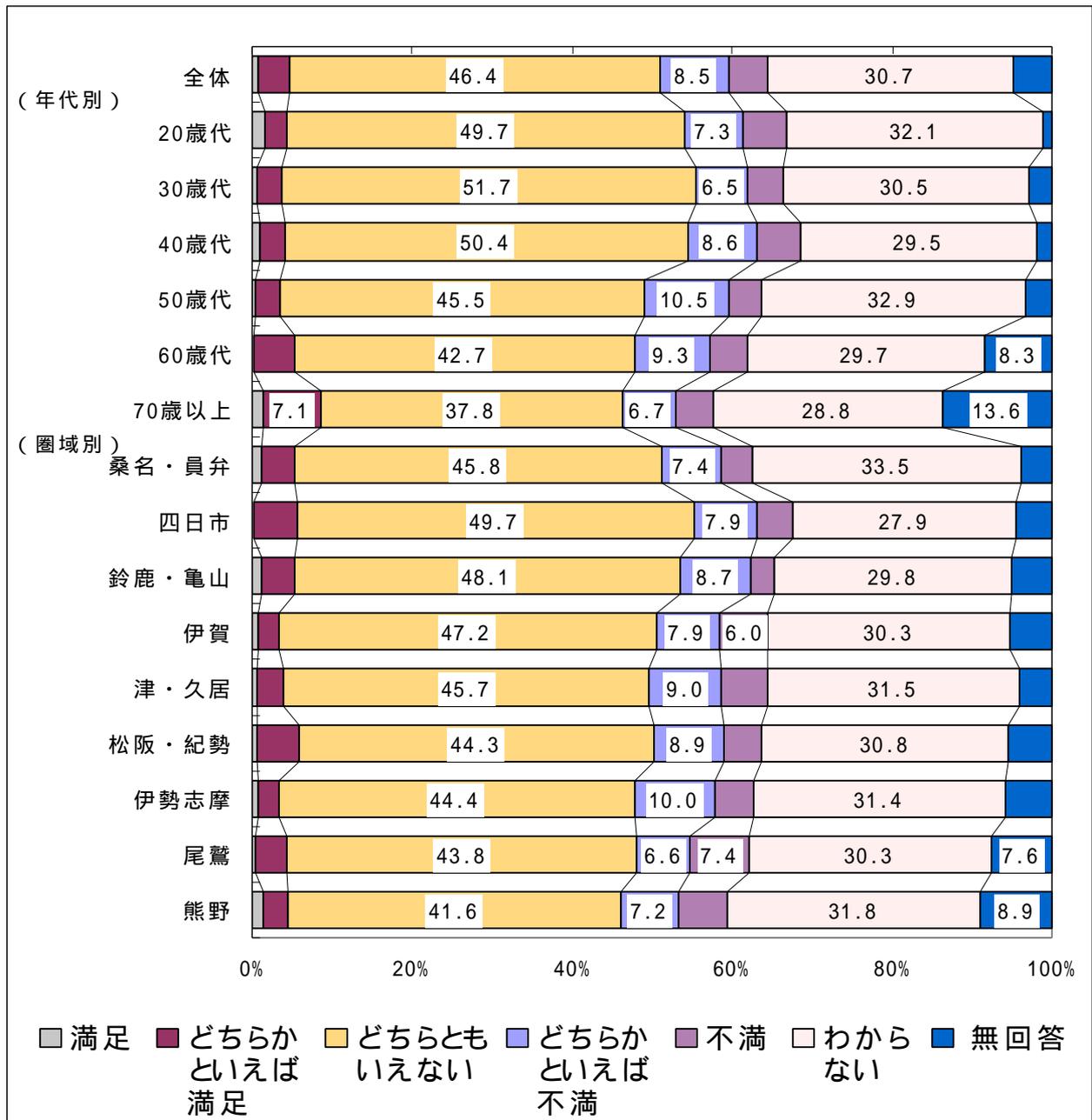
生活創造圏別にみると、不滿意識についての地域間格差が大きく、伊勢志摩（36.3%）、尾鷲（41.2%）、熊野（41.8%）の不滿意識が高い。

28)三重県を訪れる人が増加するような観光施設や地域づくり



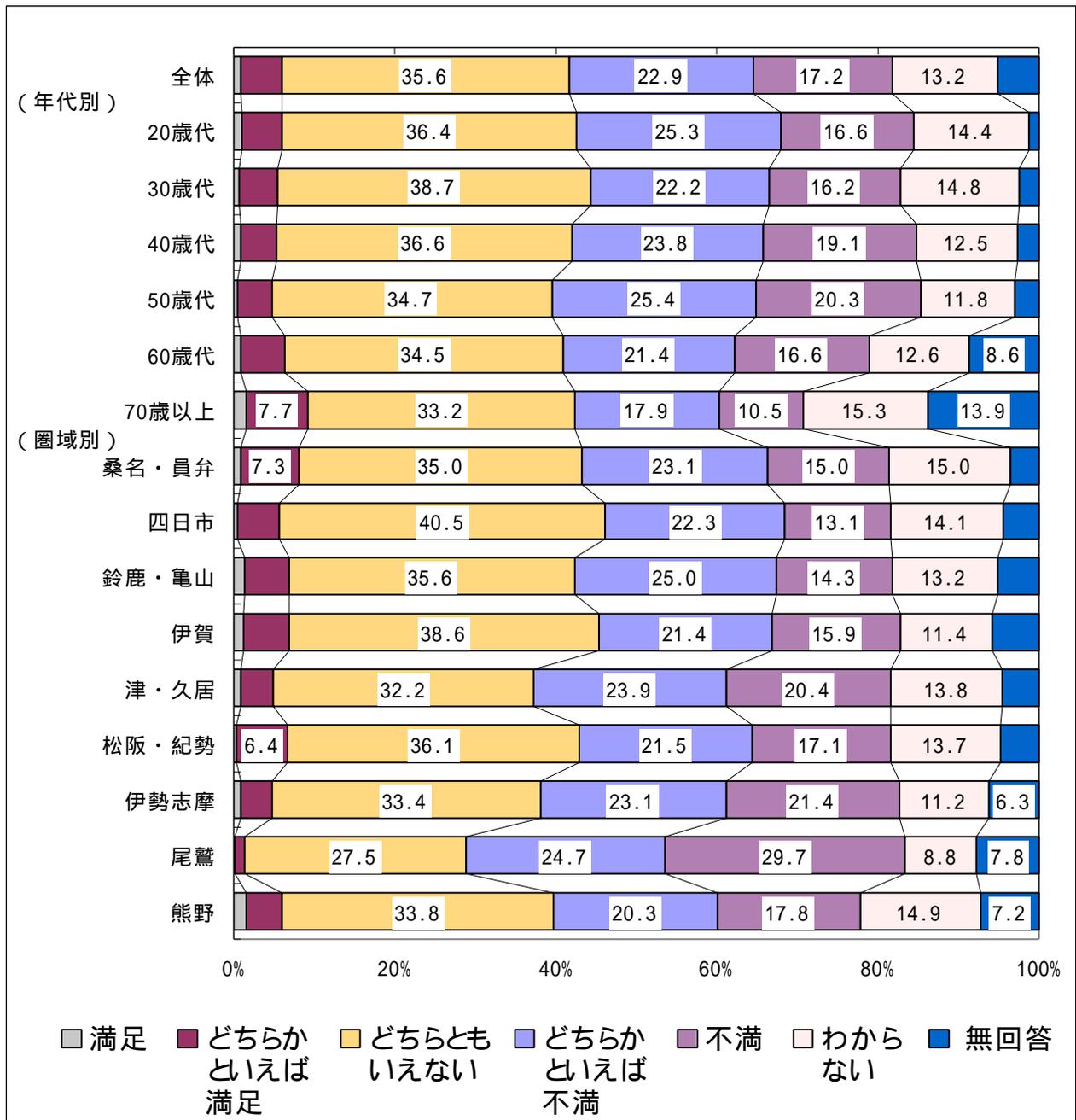
伊勢志摩（36.5%）、尾鷲（37.4%）、熊野（37.4%）の不満足意識が高い。

2.9 科学技術の振興



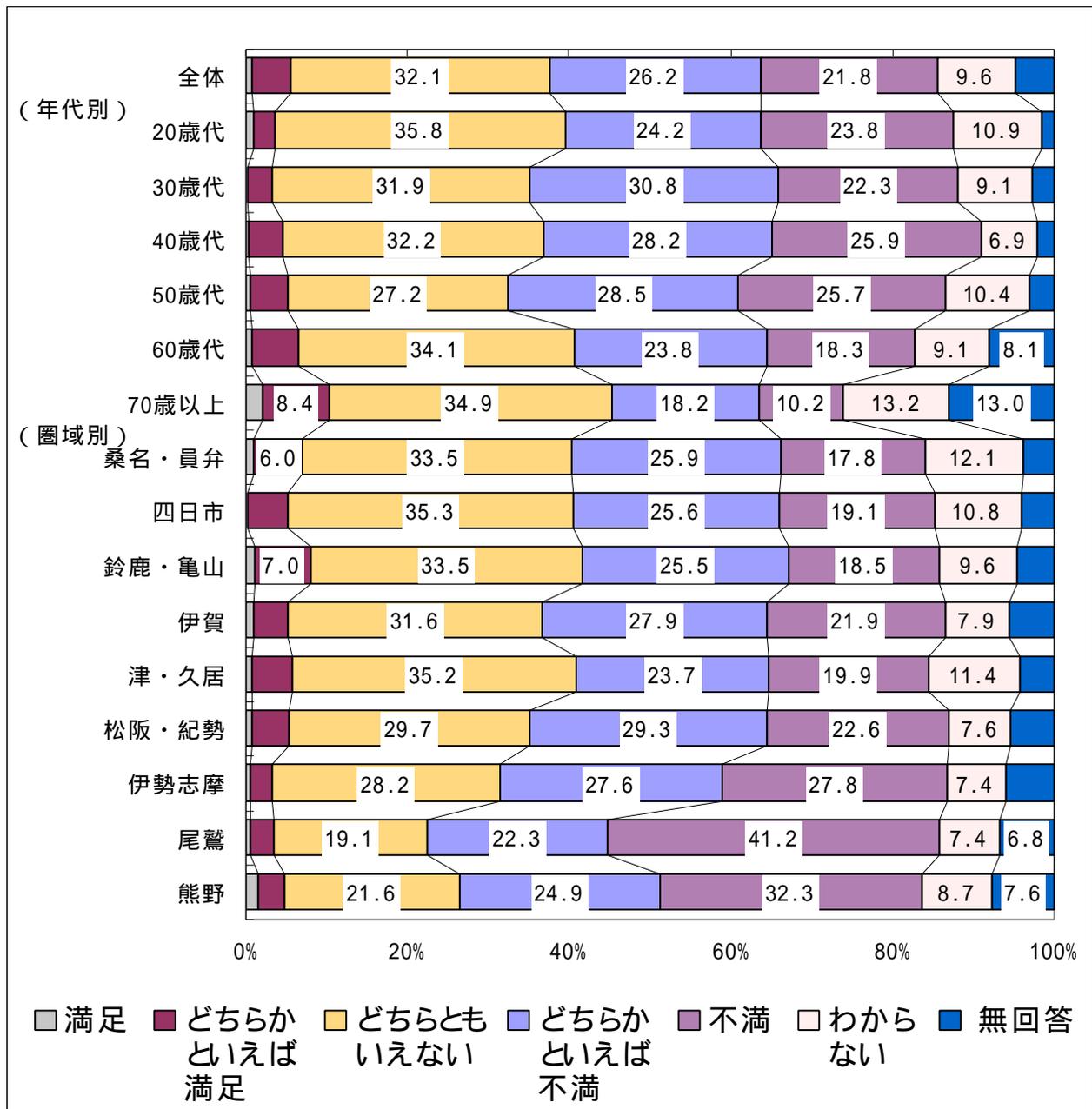
「どちらともいえない」(46.4%)と「わからない」(30.7%)という回答が多い。

30) 中小企業の支援や商店街づくりなど地域商工業の活発化



尾鷲の不満足意識（54.4%）が著しく高いほか、伊勢志摩（44.5%）、津・久居（44.3%）が県全体の不満足意識（40.1%）を上回っている。

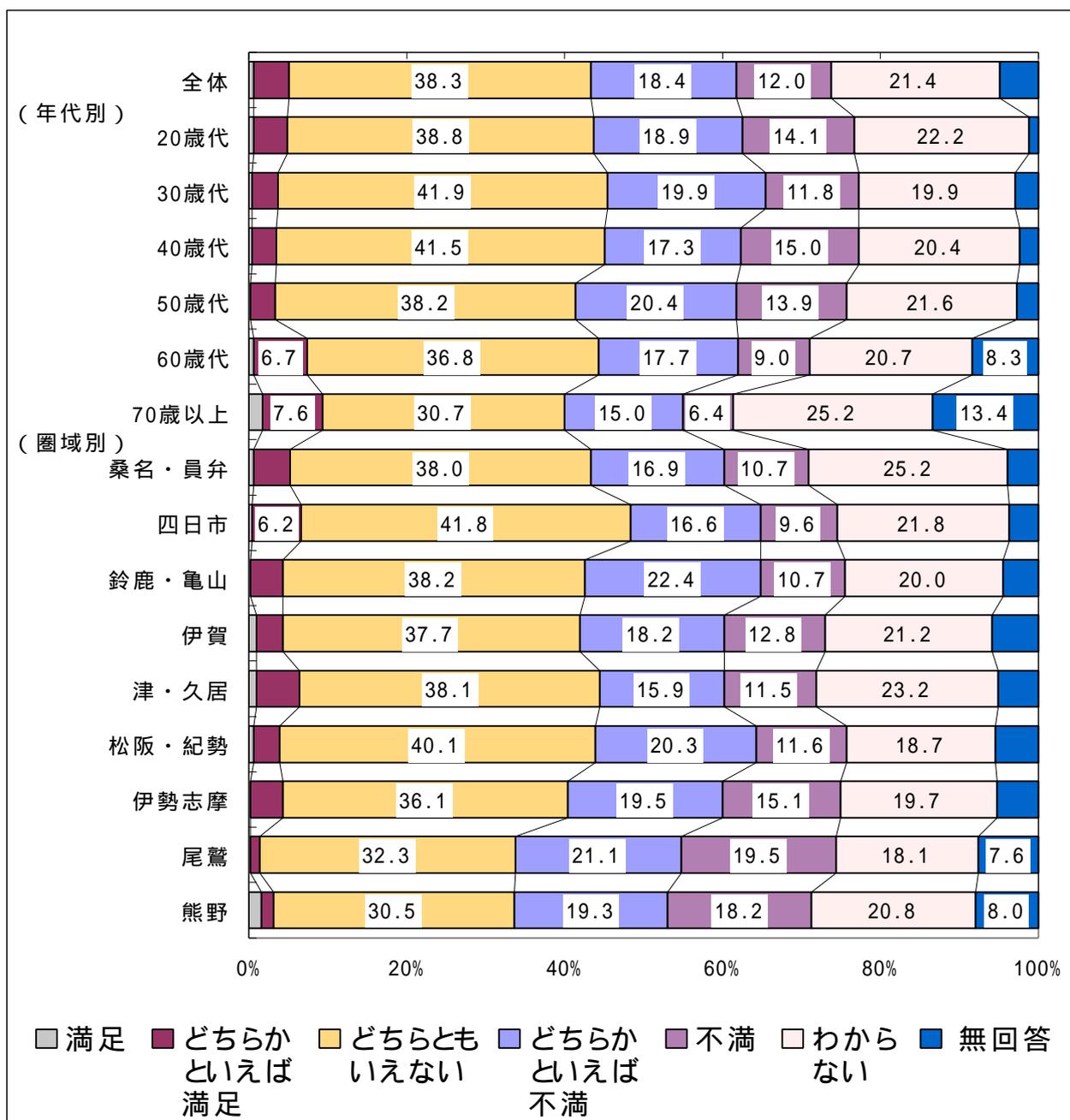
3.1 働く場の確保と勤労者福祉の向上



不満足意識が48.0%で、45項目中で3番目に高い。

県南部の不満足意識が高く、とりわけ尾鷲（63.5%）は著しく高い。

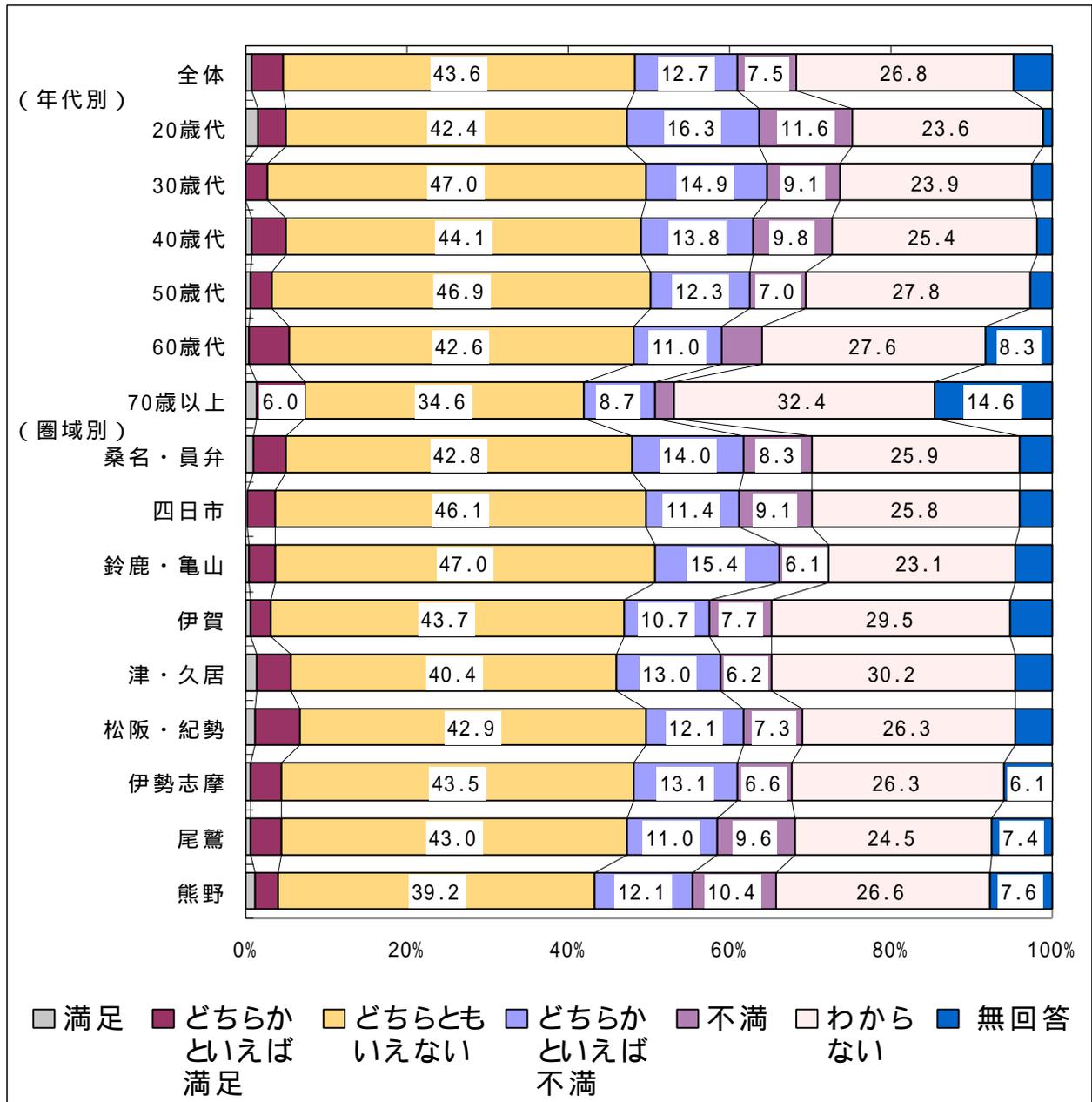
3.2) 社会の変化に対応した職業能力の開発訓練体制の充実



20歳代から50歳代までの各年代とも、不満足意識が30%台前半とかなり高くなっている。生活創造圏別では、尾鷲（40.6%）、熊野（37.5%）、伊勢志摩（34.6%）の不満足意識が高くなっている。

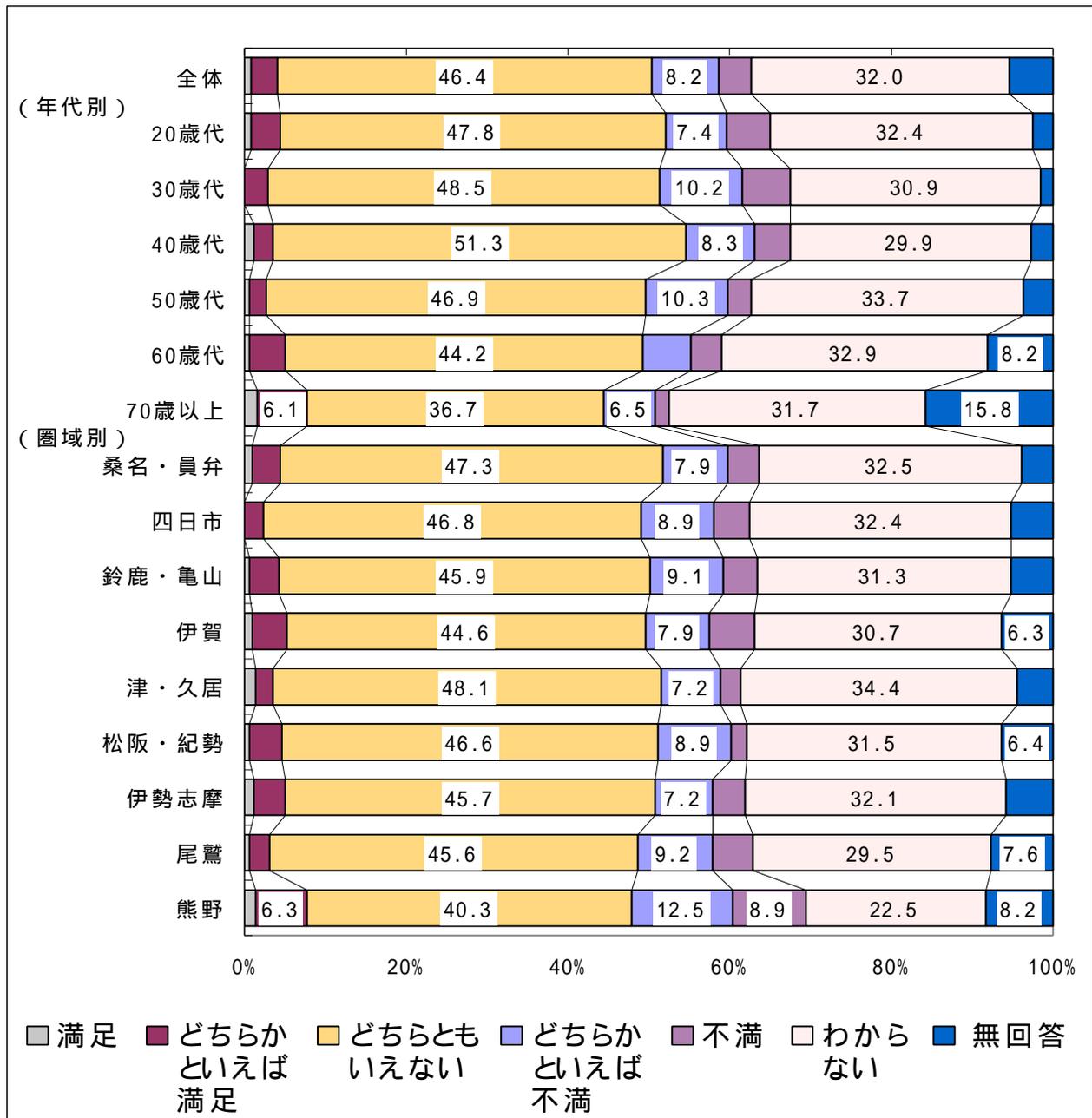
多様な交流・連携を通じ、個性と魅力のある地域を育てるために

3.3 海外の学校との提携校の拡大など国際化社会に対応できる人材の育成



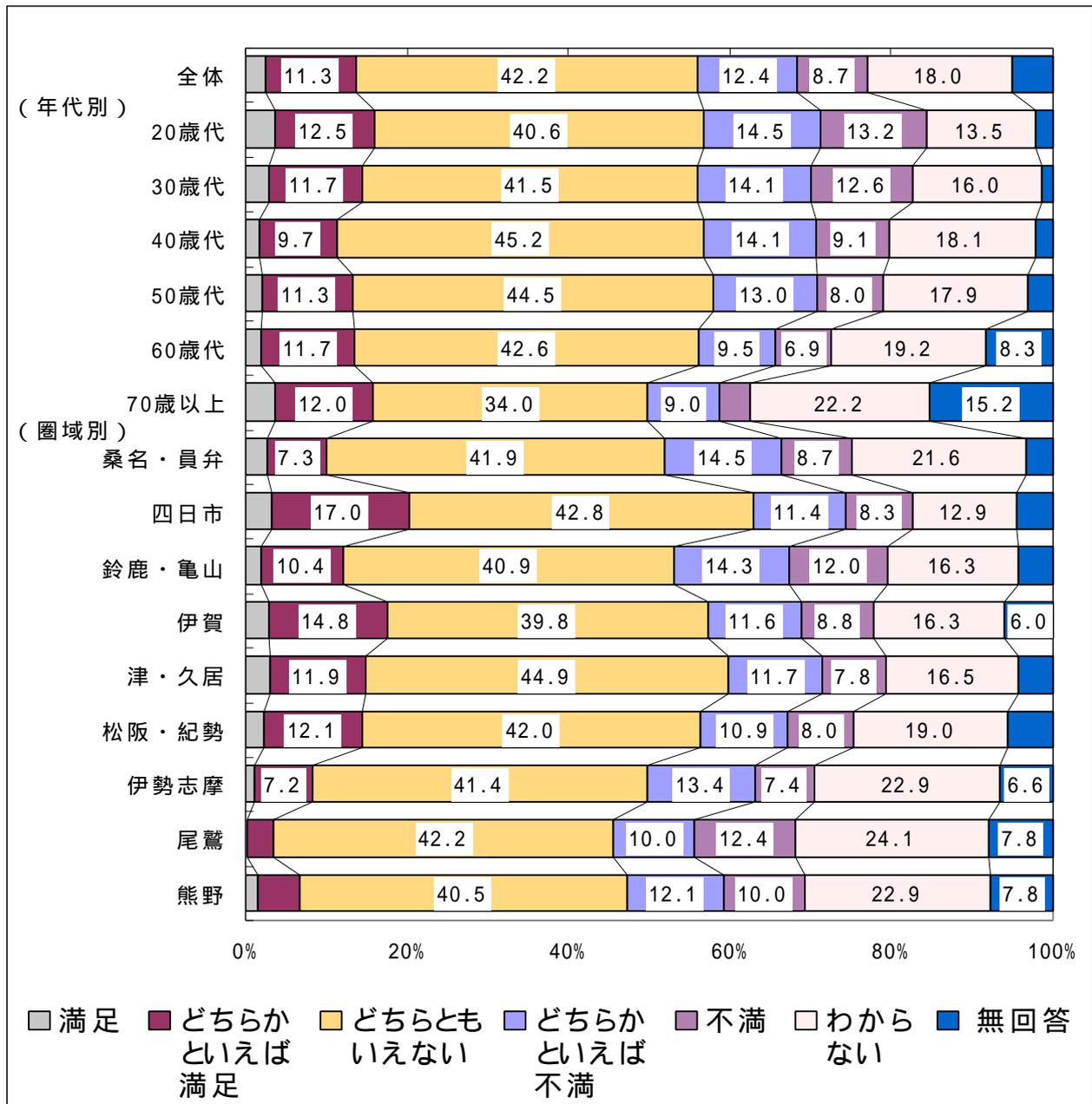
「どちらともいえない」（43.6%）、「わからない」（26.8%）という回答が多い。
 全ての年代で不満足意識が満足意識を上回っており、若年層ほど不満足意識が高い。

3.4 県境を越えた児童生徒の受け入れの弾力化など、他府県との共同事業の推進



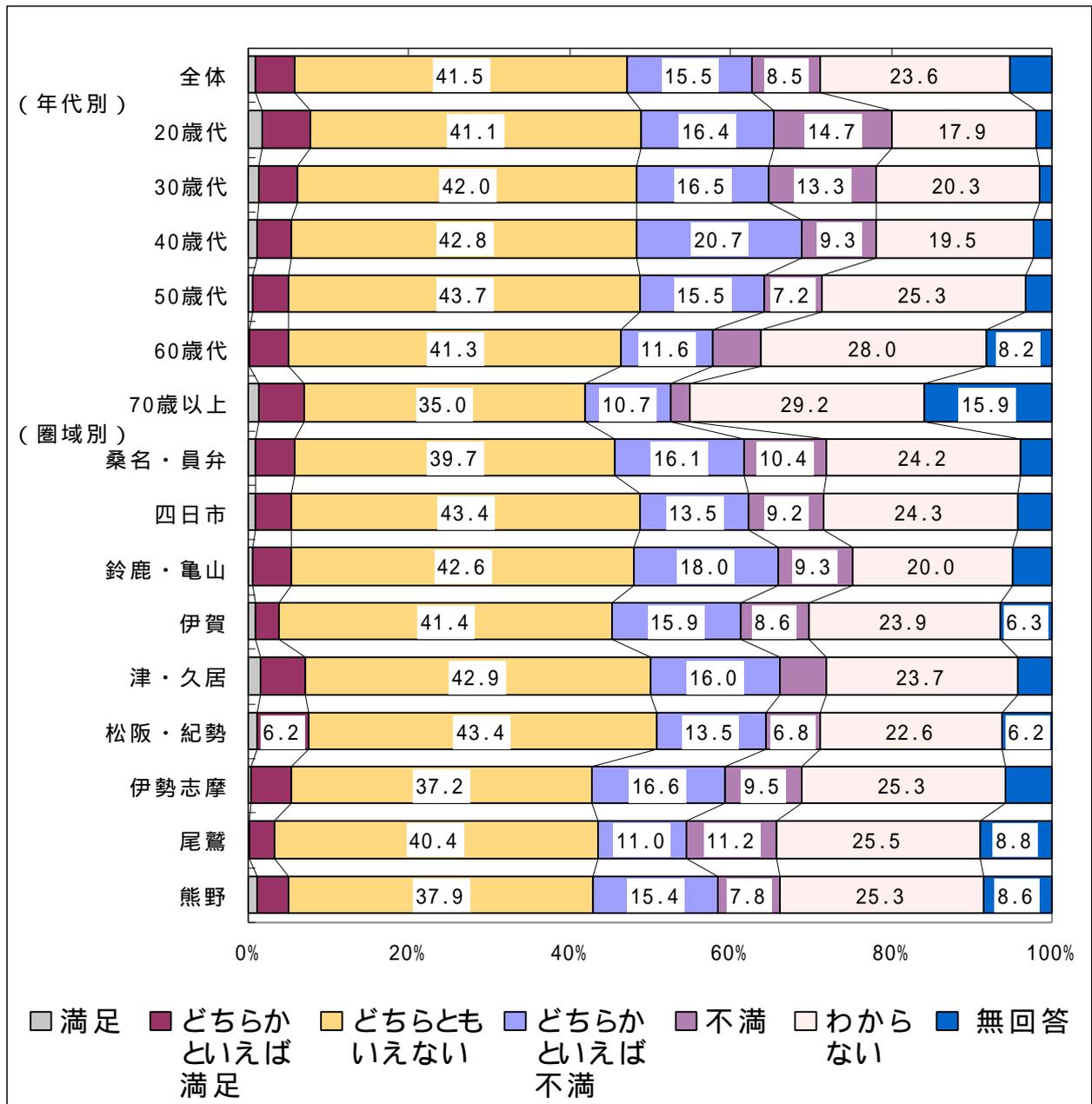
「どちらともいえない」(46.4%)、「わからない」(32.0%)という回答が多い。

35)ケーブルテレビの普及など情報ネットワークの整備



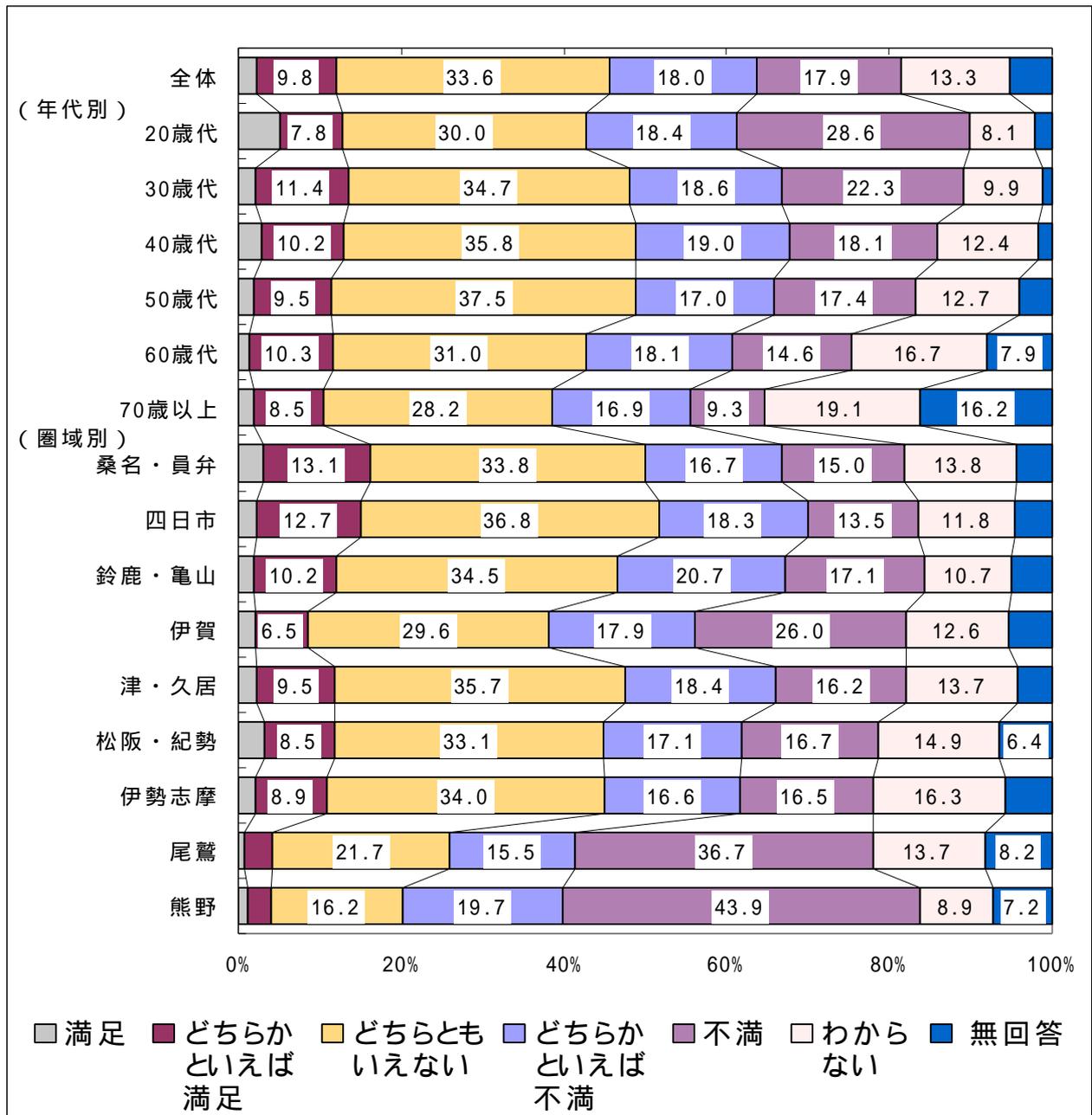
「どちらともいえない」(42.2%)、「わからない」(18.0%)という回答が多い。
年代別では若年層ほど不満足意識が高い。

36)インターネットなどの新しい情報手段に対応できるような情報教育の推進



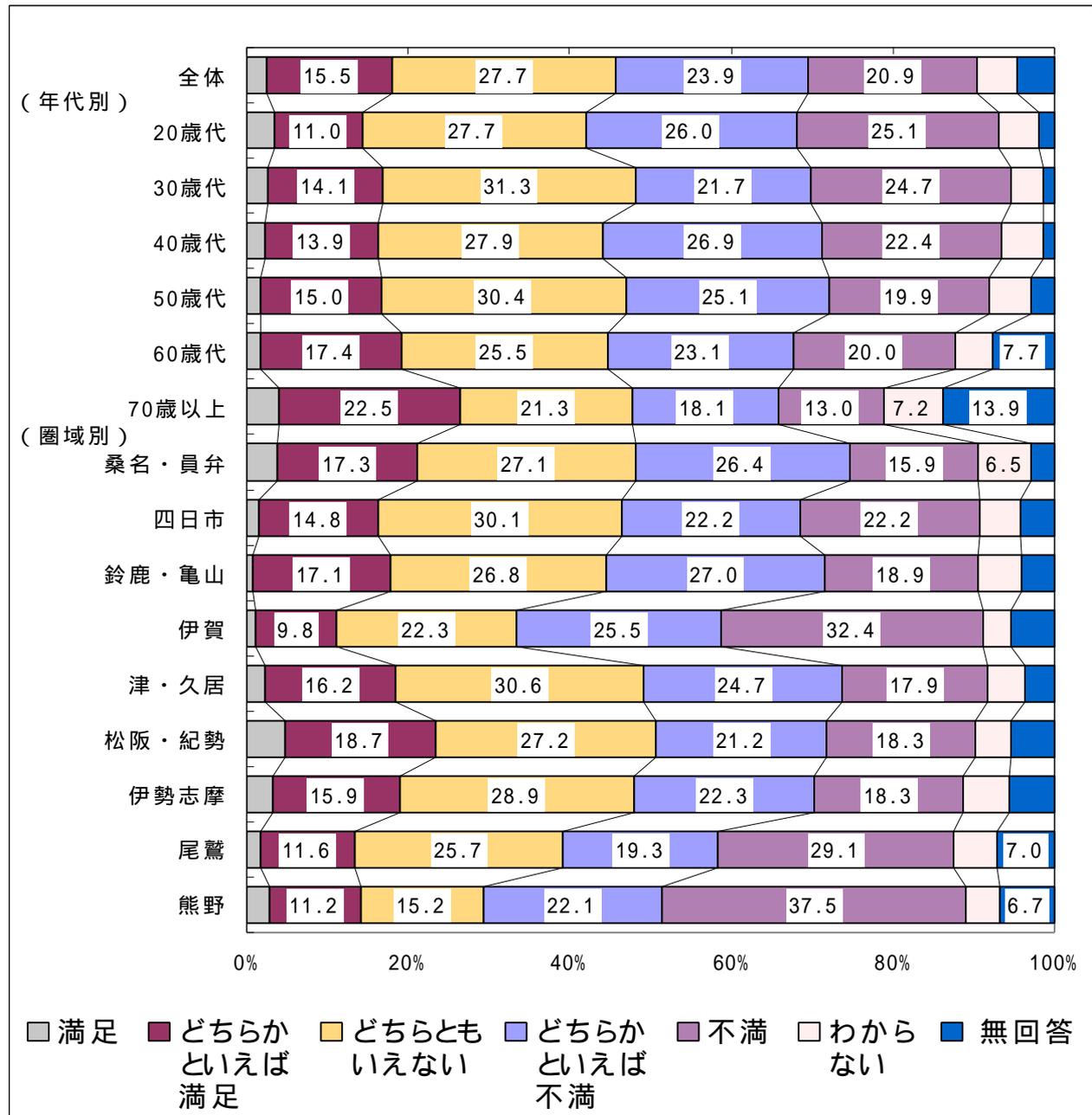
「どちらともいえない」(41.5%)、「わからない」(23.6%)という回答が多い。
年代別では若年層ほど不満足意識が高い。

37) 空港、新幹線、高速道路など高速交通機関までおおむね30分で到達できる地域の拡大



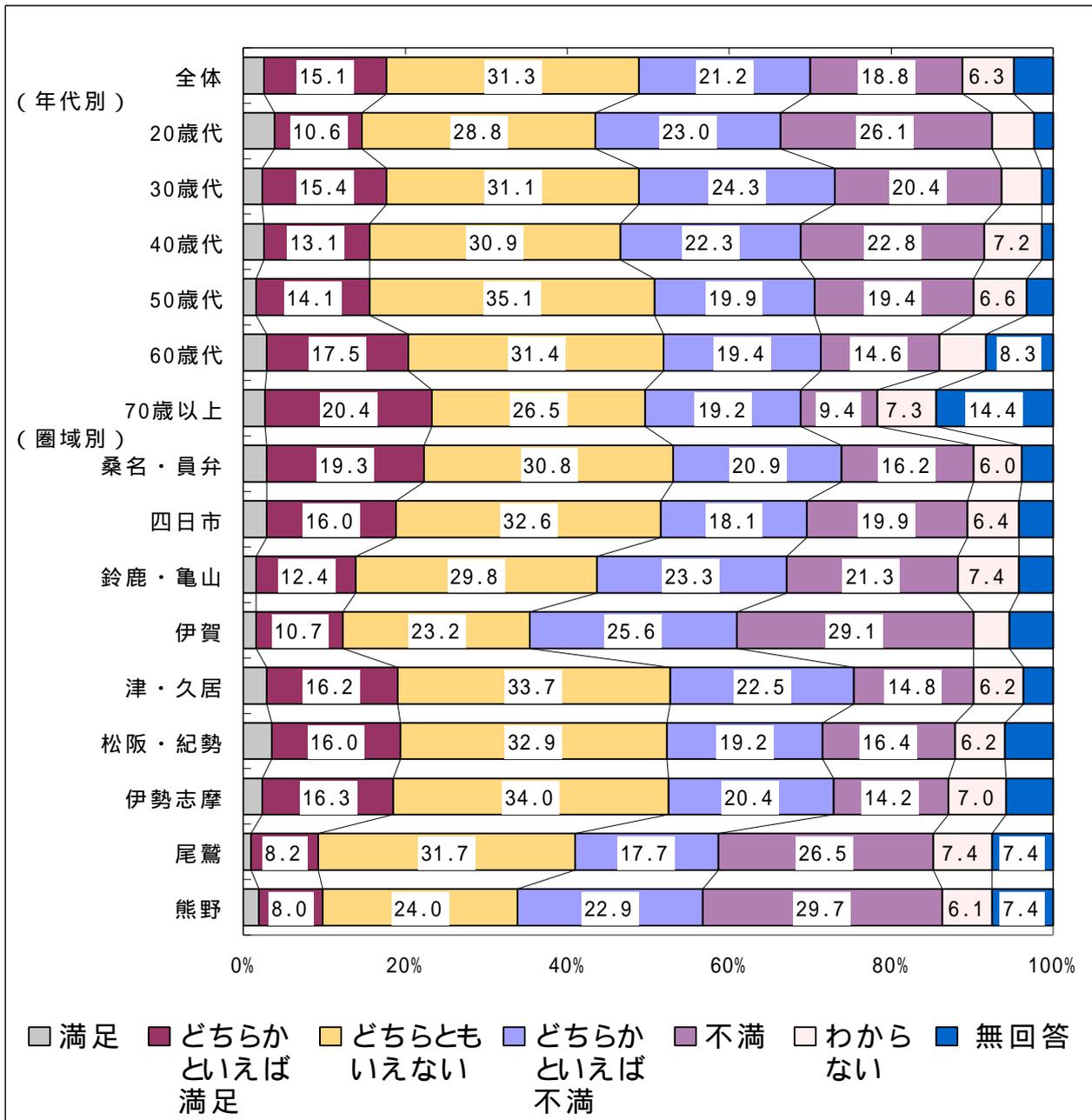
生活創造圏別にみると、不滿意識についての地域格差が大きく、熊野（63.6%）、尾鷲（52.2%）の不滿意識が著しく高くなっているほか、伊賀（43.9%）もかなり高くなっている。

38)国道や県道の改良 整備



全体の不満意識は44.8%と高く、熊野（59.6%）、伊賀（57.9%）では50%を超えている。

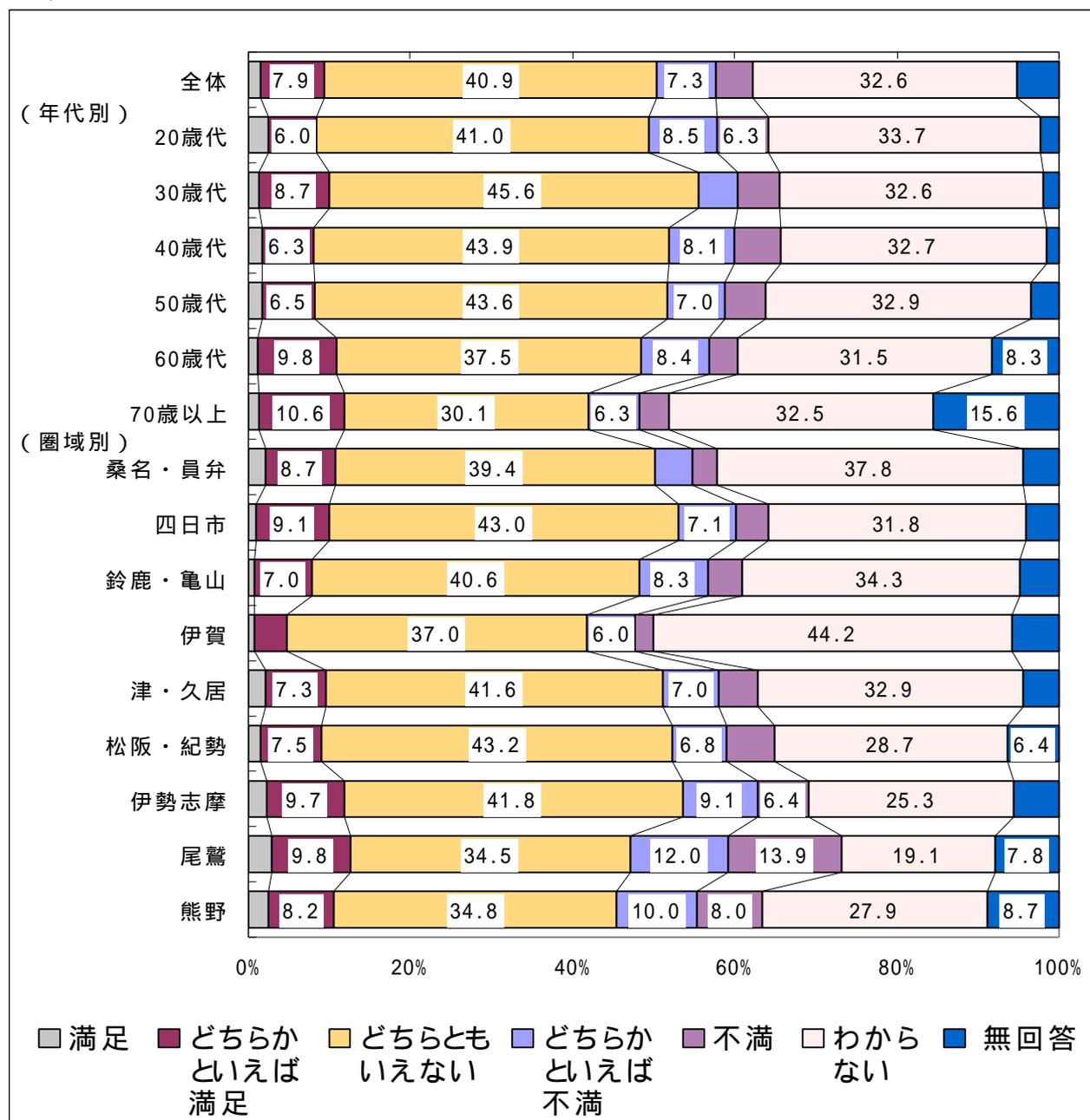
39) 鉄道やバスなど公共交通機関の整備



全体の不満足意識は40.0%とかなり高く、伊賀（54.7%）、熊野（52.6%）では50%を超えている。

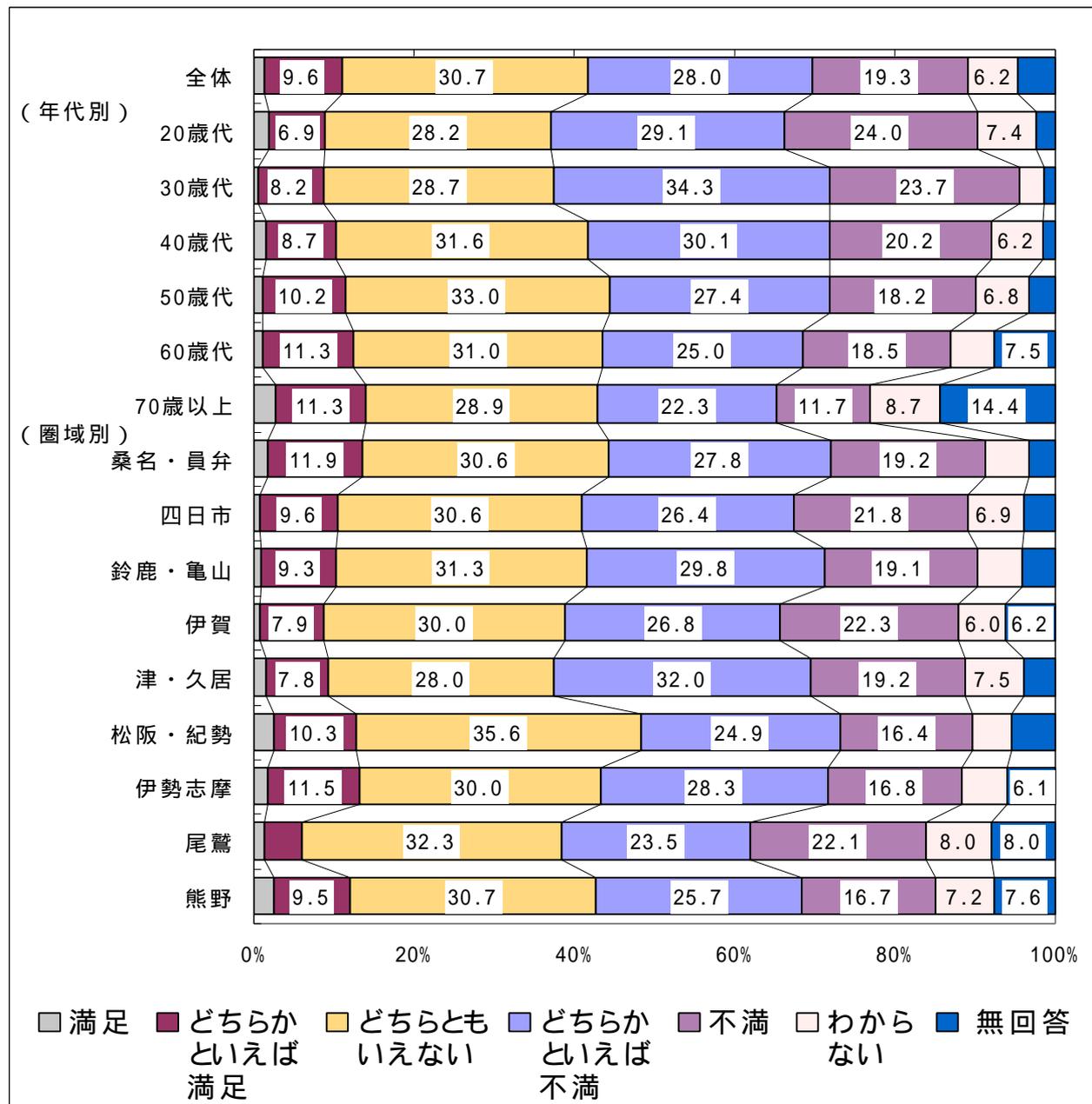
年代別では、20歳代の不満足意識（49.1%）が最も高くなっている。

40) 港湾の整備



「どちらともいえない」「わからない」という回答が多い。
 不満足は尾鷲（25.9%）が一番高くなっている。

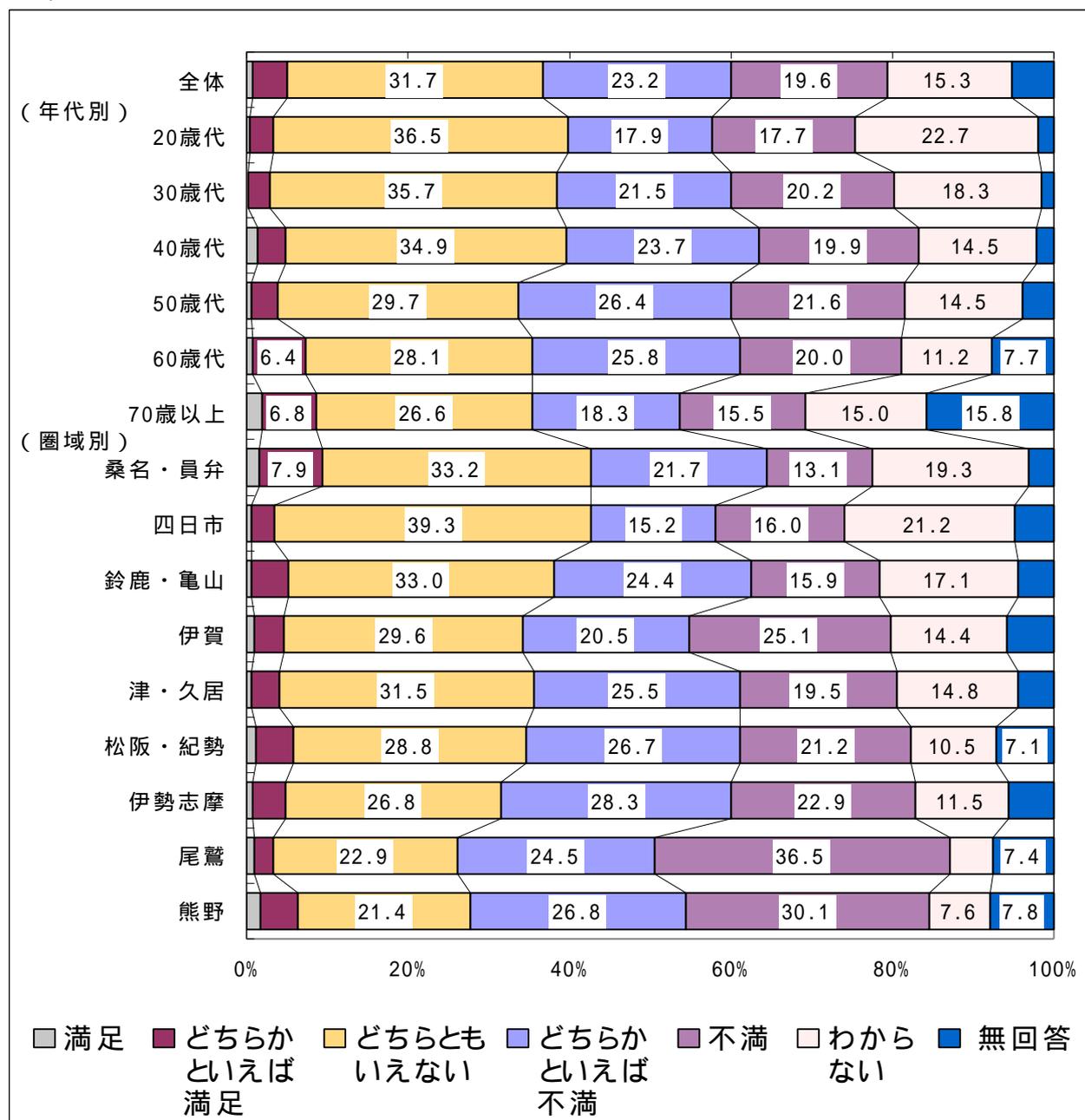
41)公園や歩道、段差のない公共的施設など快適なまちづくり



不満足意識（47.3%）が45項目中4番目に高い。

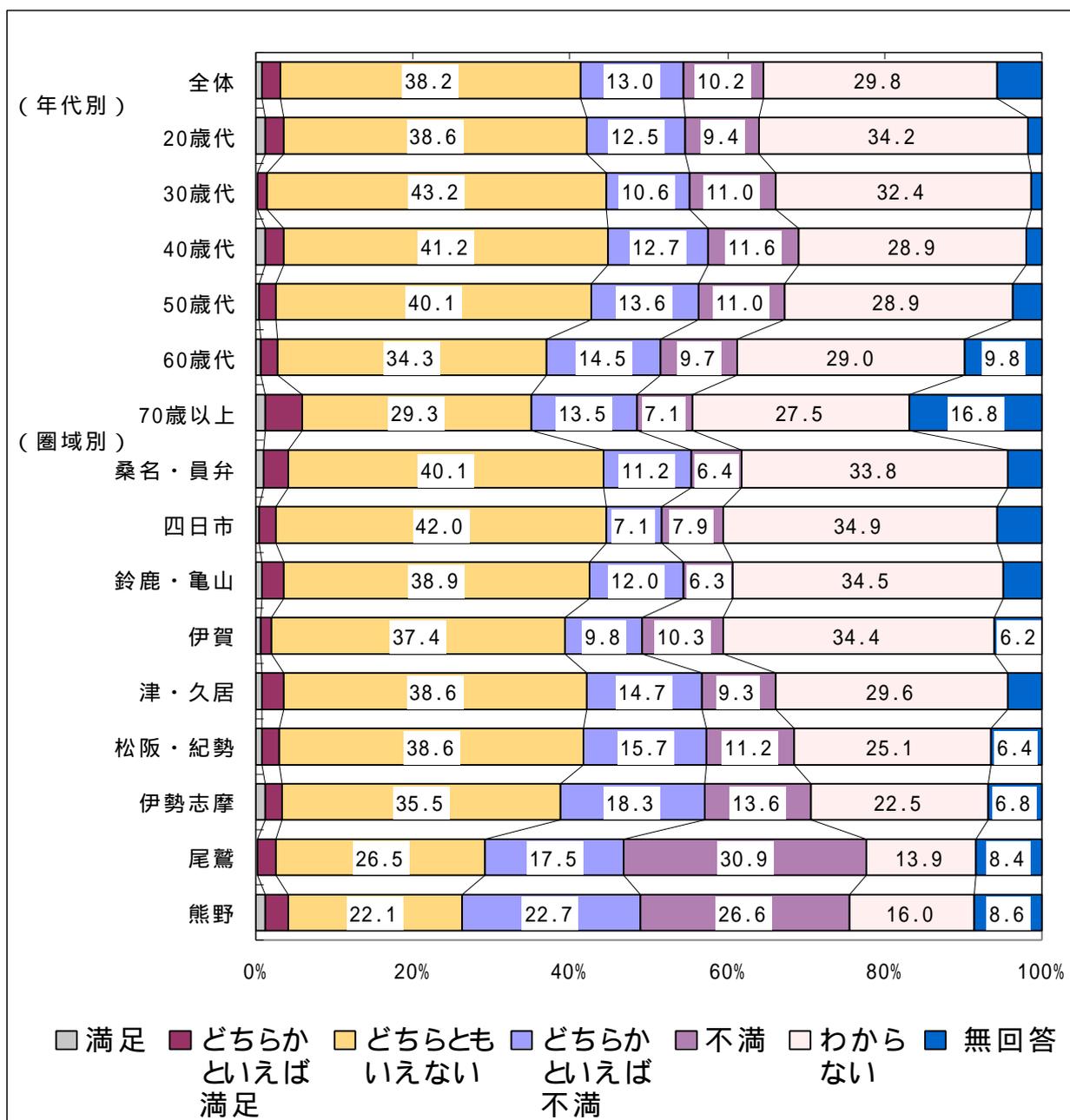
20歳代（53.1%）と30歳代（58.0%）の不満足意識が特に高い。

4 2)道路、生活排水処理施設の整備など若者が定住する農山漁村づくり



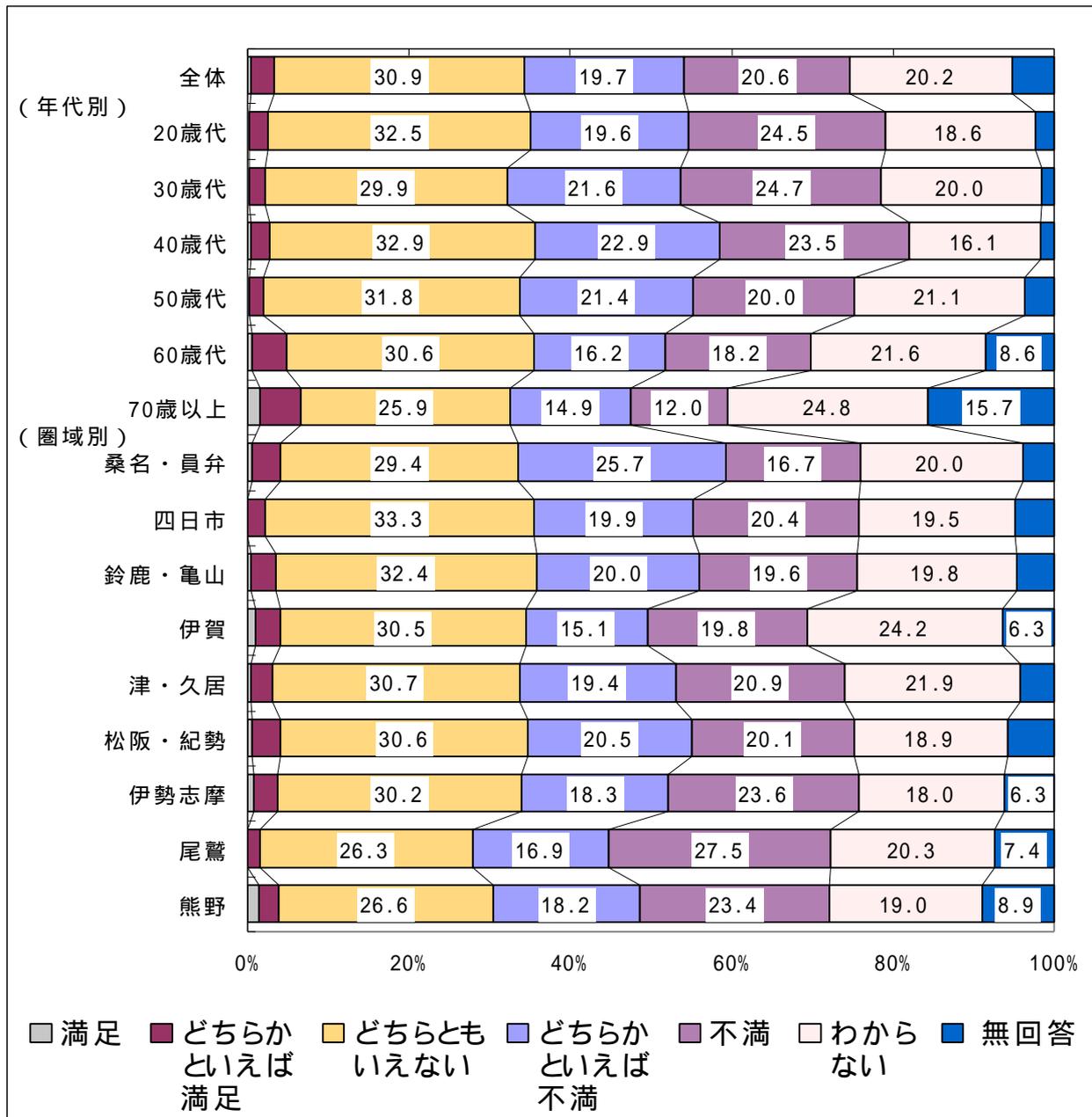
全体の不満足意識は42.8%とかなり高く、生活創造圏別では、尾鷲(61.0%)、熊野(56.9%)、伊勢志摩(51.2%)の不満足意識が特に高い。

4.3 過疎地域や離島、半島地域の活性化



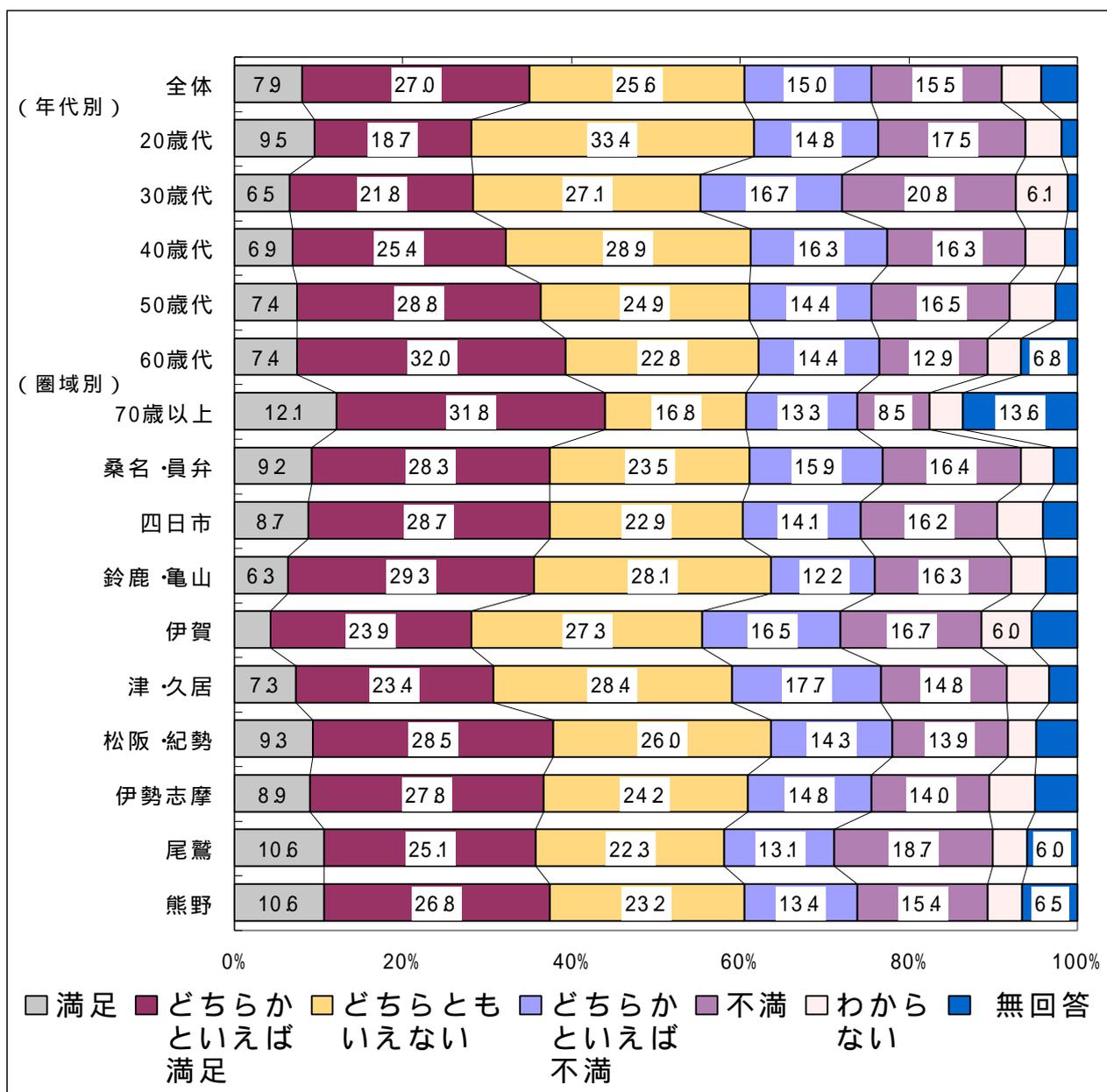
全体の不満足意識は23.2%で「どちらともいえない」「わからない」より少ないが、生活創造圏別にみると尾鷲（48.4%）、熊野（49.3%）の不満足意識が極めて高い。

4.4) 省エネルギー対策の推進、太陽光発電の普及など地球に優しいエネルギー対策



不満足識が40.3%とかなり高くなっている。

45) 安心して飲める水の安定確保



重要意識、満足意識ともに全項目中で最も高い。

伊賀と津・久居では不満足識（33.2%、32.5%）が満足意識（28.1%、30.7%）を上回っている。